

令和7年度用 受講ガイド



兵庫県立阪神昆陽高等学校



部	年次	クラス	番号	学 籍 番 号	名 前
部	年次				



目 次

<u>はじめに</u>	1
-------------------	---

第1章 受講登録までの基礎知識

<u>1 卒業認定条件について</u>	3
<u>2 受講登録等についての留意点</u>	3
<u>3 単位の認定等について</u>	4
<u>4 必履修科目一覧表</u>	5
<u>5 定通併修について</u>	6
<u>6 その他、外部機関による単位認定について</u>	7

第2章 受講登録・時間割作成までの手順

<u>1 受講登録にあたっての注意事項</u>	9
<u>2 受講登録・時間割作成の手順</u>	10
<u>3 令和7年度 開講科目</u>	12
<u>4 旧教育課程生徒の未履修・未修得科目の再履修について</u>	13
<u>5 各教科の科目説明及び進路希望に応じた受講順序等</u>	14
(1) <u>国語</u>	14
(2) <u>地理歴史</u>	21
(3) <u>公民</u>	26
(4) <u>数学</u>	29
(5) <u>理科</u>	36
(6) <u>保健体育</u>	42
(7) <u>芸術</u>	45
(8) <u>外国語</u>	49
(9) <u>家庭</u>	53
(10) <u>情報</u>	56
(11) <u>商業</u>	57
(12) <u>福祉</u>	60
(13) <u>キャリア</u>	61
(14) <u>共生社会と人間</u>	62
(15) <u>総合的な探究の時間</u>	65
(16) <u>自立活動</u>	66

はじめに

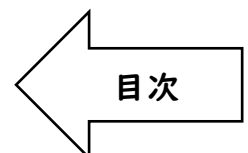
阪神昆陽高等学校は、自分のペースで学びたい生徒や働きながら学ぶ生徒、高校を中途退学して再チャレンジしたい生徒など、幅広いニーズを持つ生徒が、それぞれの興味・関心等に応じて主体的に学ぶことができる学校として、平成 24 年 4 月、定時制課程の多部制単位制高校として開校しました。1 部、2 部、3 部の各部で、1 日 4 ～ 6 時間の授業を開講しています。原則として、所属する部（在籍部基礎時間帯）における教科・科目を週 19 時間（19 単位）履修し、4 年で卒業することを目指しますが、条件を満たせばさらに自分の所属する部以外の部で履修することができ、3 年で卒業することも可能です。

また、同じ敷地内に同時に開校した阪神昆陽特別支援学校は、生徒が自らの障害を乗り越え、主体的に生活を営むことができる力を身につけ、社会的・職業的自立に必要な能力を伸ばすことができる学校をめざしています。このような両校は、日常生活や学校行事、生徒会活動、授業（共同の学び）などでの交流及び共同学習を通して、生徒が共に助け合って生きていくことを実践的に学ぶ機会を設定し、ふれあいを通した豊かな人間性を育むとともに、社会におけるノーマライゼーションの理念を進展するための礎（いしずえ）となる学校をめざしています。本校生は、このことも忘れずに学校生活を送って欲しいと思います。

次に、本校は次の教育目標を掲げています。

「社会で必要なルールや学力、基礎的な習慣を身につけ自己肯定感（自分は大切な存在だ）・自己効力感（自分はやればできる）を培い、グローバルな環境に適応し、社会に貢献できる人財を育てる」

ルールや学力、基礎的な習慣を身につけようと日常生活の中で常に実践することが、みなさんの人間的な成長につながり、社会に通用する人となって本校を卒業してくれることを願っています。



さて、令和7年度、本校は開校から14年目となり、学校の創設期から発展期に入ります。学校は、伝統を引き継ぎつつも、さらに飛躍していくために日々取捨選択しながら変化しています。

みなさんの「学び」に対しても同じことが言えます。基礎学力を身につけるのはもちろん、さらに発展的な学びから社会で通用する高い学力を獲得していくために、教務規程の見直しや、受講登録の仕方、教科科目の内容（シラバス）の変更、授業改善など、多方面から様々な取り組みが行われています。

学ぶ側でも、いくつかの項目で再確認していかなければなりません。授業の受け方はどうか、家庭学習の時間は確保されているか、自分の特性・興味・関心に応じて、それぞれの目標に向かって必要な教科・科目を学習しているか、その科目を適切な時期に学んでいるか。このようなことは、みなさんが自分で行動し、自分で決めなければなりません。そしてそれを踏まえて受講登録することで、最終的に主体的で深い学びと社会で通用する学力へつながることになります。

上記の通り、受講登録はみなさんの将来に関わる大切な要素の一つです。この冊子は、受講登録の方法や手順、各科目の具体的な内容等を載せており、今後の学校生活の「学びの手引き」となっています。この冊子をうまく活用し、自分の将来の進路に合致した受講登録を行い、みなさん自身の高校生活の学びを組み立ててほしいと思っています。また、必要に応じて別冊の「まなびナビ」等も併用してください。



目次

第1章 受講登録までの基礎知識

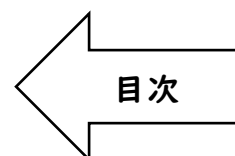
1 卒業認定条件について

次のすべての条件を満たした場合、卒業認定となります。

- (1) 高等学校等における在籍期間が、他の高等学校等の在籍期間を含めて3年以上であること。ただし、休学の期間は除く。
- (2) 転・編入学生徒については、本校の在籍期間が6ヶ月以上であること。
- (3) 必修科目の履修が認定されていること。
- (4) 「総合的な探究の時間」の履修が3単位以上認定されていること。
- (5) 修得単位数が74単位以上であること。ただし、学校設定教科・科目については20単位を超えるものは算入されないため、学校設定教科・科目以外で54単位以上修得しなければなりません。
- (6) 「特別活動」の成果が、卒業年度を含め3年以上認定されていること。

2 受講登録等についての留意点

本校の教務規程により、本校に在籍できる期間は**最長6年間**です。また、正当な理由なく所定の期日内に受講登録が行われない者は退学勧告をされます。さらに、2年間(4半期)続けて修得単位数が0単位の者も退学勧告をされます。十分注意してください。



3 単位の認定等について

(1) 「単位」とは

「単位」とは「学習の量」であり、1単位とは週あたり1時間(45分)の授業を1年間学んだ学習の量をいいます。また、週に2時間の授業を半年間学んでも1単位となります。

(2) 「履修」とは

「履修」とは、その授業に出席し学習活動に参加することです。具体的には1年間(前期・後期の半期完結の授業では半年間)の授業の欠課時数が、1単位につき、8時間以内であることが必要です。「履修」が認定されればその授業を「学習したこと」は認められますが、まだその授業の単位が認定されたことにはなりません。

(3) 「修得」とは

「修得」とは、その授業の単位が認定されることです。履修が認められた科目について、学習の成果が科目の目標に達していると認められた場合、その科目の単位修得が認定されます。具体的には、5段階評定で2以上の評定が与えられた場合、単位修得が認定されます。

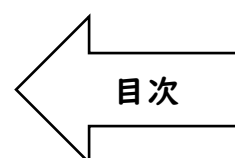
(4) 成績の評価

成績は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点別評価(A、B、Cの3段階、Aが高評価)と総合的な5段階の評定(1～5、5が高評価)の2つがあります。

それぞれ単元テストや小テストの成績、学習態度、提出物、出席状況等を総合的に評価します。

(5) 本校以外での学習成果の単位認定について

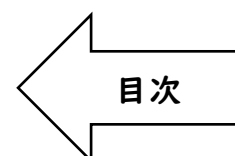
本校の授業以外(学校外)の高等学校卒業程度認定試験科目合格や各種技能審査(資格検定試験)の合格も一定の条件のもとで、卒業に必要な単位の一部を修得したものと認められます。詳しいことは担任の先生に相談してください。ただし、学校外の学習成果による単位修得を積極的に勧めているわけではありません。まずは、学校の授業を大切にしてください。



4 必履修科目一覧表（令和4年度以降 入学生用）

- ・必履修科目は学習指導要領に基づいています。
- ・必履修科目：高等学校卒業に必要な科目
- ・選択科目：興味・関心や将来の進路に応じて自分で選択する科目
- ・必履修科目において本校で開講されない科目が一部あります。
- ・卒業までに必履修科目を含む74単位以上の修得が必要となります。

教科	科目	標準単位	必履修の条件
国 語	現代の国語	2	2科目を履修すること
	言語文化	2	
地 理 歴 史	地理総合	2	2科目を履修すること
	歴史総合	2	
公 民	公共	2	1科目を履修すること
数 学	数学Ⅰ	3	1科目を履修すること
理 科	科学と人間生活	2	「科学と人間生活」を含む2科目 または 「基礎」を付した科目3科目履修すること
	物理基礎	2	
	化学基礎	2	
	生物基礎	2	
	地学基礎	2	
保 健 体 育	体育	7～8	各年次継続して履修すること
	保健	2	原則として、入学年次及びその次の年次の2力年にわたり、各1単位を履修すること
芸 術	音楽Ⅰ	2	どれか1科目を履修すること
	美術Ⅰ	2	
	書道Ⅰ	2	
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	1科目を履修すること
家 庭	家庭基礎	2	1科目を履修すること
情 報	情報Ⅰ	2	1科目を履修すること
総合的な探究の時間		3～6	3単位以上履修すること



5 定通併修について

県立網干高等学校通信制課程との定通併修における学習成果の単位認定について、希望者は校長の許可を得て下表の教科・科目の単位を履修・修得することができます。ただし、対象者は新2年次以上の生徒に限ります。

なお、受講等には以下の条件等がありますので担任の先生とよく相談の上、申し込んで下さい。

(1) 通信制の課程との併修による対象科目と単位認定について

ア 単位を認定する教科・科目は本校教育課程において設置されていないものに限りません。

イ 対象科目・単位数

教科	科目	単位数	教科	科目	単位数
家庭	生活と福祉	3	商業	マーケティング	3
情報	情報の表現と管理	2	商業	経済活動と法	3
商業	ビジネス基礎	3	商業	ビジネス経済応用	3
商業	ビジネス経済	3			

ウ 年度末に県立網干高等学校長からの併修結果通知をもとに、該当の教科・科目を単位認定会議に諮り年度末に本校の単位として認定されます。

(2) 認定単位の合計について

定通併修で認定できる単位数は、技能審査及び高等学校卒業程度認定試験等による認定単位数と合わせることで、その上限は36単位です。

また、1年間に履修できる単位数は、本校での受講登録単位数と合わせて29単位以内となります。（受講登録時には、定通併修分の単位は除いて入力して下さい。定通併修分は、後日別途入力します。）

(3) 併修履修の手続き等について

ア 定通併修を希望する人は本校所定の「定通併修許可願」（様式Ⅱ）を提出し、校長の許可を受けなければなりません。

イ 受講が許可された人は、5月の連休明けにオリエンテーションが阪神昆陽高校であります。この時に教科書代と郵送料（180円～320円程度）を納入します。（費用は事前に連絡されます。）

(4) レポート・スクーリング等について

ア レポートは1単位あたり3枚程度です。（3単位の科目で平均9枚、回数9回）各自で郵送します。内容によっては再提出もあります。

イ スクーリング等は、阪神昆陽高校で行われます。時間数は科目によって異なりますが、6時間～12時間程度です。回数も科目ごとに異なります。

(5) 申し込み等について

定通併修希望者は、12月13日（金）までに担任の先生を通じて、教務・ガイダンス部まで申し込んで下さい。*受講登録面談で担任と相談して下さい。

6 その他、外部機関による単位認定について

(1) 技能審査合格による単位認定について

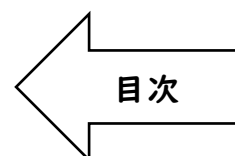
日本漢字能力検定、実用英語技能検定等、知識及び技能に関する審査に合格した場合、本校開設科目の増加単位として認定する。

認定の対象は、本校在学中に該当技能審査に合格した場合に限る、など様々な細則があるため、認定されるかどうかに関しては、必ず担任に申し出て確認をすること。

〔参考：単位の認められる技能審査の例〕

技能審査の種類	実施団体	級	対応する科目	増加 単位数
日本漢字能力検定	(公財) 日本漢字能力検定協会	2 級	現代の国語 言語文化	2
硬筆書写技能検定	(一財) 日本書写技能検定協会	2 級	書道 I	1
毛筆書写技能検定	(一財) 日本書写技能検定協会	2 級	書道 I ・ 書道 II	2
実用英語技能検定	(公財) 日本英語検定協会	2 級	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II	3
情報処理検定	(公財) 全国商業高等学校協会	1 級	情報処理	2
ビジネス文書実務検定	(公財) 全国商業高等学校協会	1 級	情報処理	2
簿記実務検定	(公財) 全国商業高等学校協会	1 級	簿記	2
全国高等学校家庭科 食物調理技術検定	(公財) 全国高等学校家庭科教育振興会	1 級	フードデザイン	2
		2 級		1

※対応する科目の修得単位数と増加単位数合計が、標準単位数の倍まで認定されます。



(2) 高等学校卒業程度認定試験合格による単位認定について

ア 入学以前または在学中に高等学校卒業程度認定試験で合格点を得た受験科目（以下「合格した科目」という）を、それに相当する本校教育課程に設けられている各教科・科目に限り単位を修得したものとして認定することができる。

ただし、高等学校卒業程度認定試験の科目合格をもって卒業条件の必履修科目の履修の認定は行われず。卒業条件の必履修科目の履修の認定は、本校開講科目の受講によらなければならない。（P 3 「第 1 章 1 卒業認定条件について(3)必履修科目の履修が認定されていること」を参照）

イ 令和 4 年度以降の入学生徒については、本校で履修認定された科目を合格した場合に限り、一律 2 単位を卒業単位として認定する。転編入学生については、配当された年次の規定に従うものとする。

ウ 高等学校卒業程度認定試験、技能審査、定通併修等における学習成果により認定できる単位数の合計は 36 単位までとする。

エ 高等学校卒業程度認定試験で合格した科目の認定を申請する場合、教務・ガイダンス部に以下の書類を提出する。

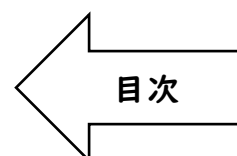
① 高等学校卒業程度認定試験 科目認定願

② 高等学校卒業程度認定試験 科目別合格証明書

オ 高等学校卒業程度認定試験で合格した科目の認定は、卒業時に行う。

カ 高等学校卒業程度認定試験で合格した科目を単位修得とみなす科目名及び単位数は以下のとおりである。

高等学校卒業程度認定試験の合格科目	単位修得とみなす科目名	修得とみなす単位数	高等学校卒業程度認定試験の合格科目	単位修得とみなす科目名	修得とみなす単位数
国語	現代の国語	どちらかに 2	科学と人間生活	科学と人間生活	2
	言語文化		物理基礎	物理基礎	2
地理	地理総合	2	化学基礎	化学基礎	2
歴史	歴史総合	2	生物基礎	生物基礎	2
公共	公共	2	地学基礎	地学基礎	2
数学	数学Ⅰ	2	英語	英語コミュニケーションⅠ	2



第2章 受講登録・時間割作成までの手順

1 受講登録にあたっての注意事項

「受講登録にあたっての注意事項」は、受講登録をする上で守らなければならない事項をまとめたものです。受講登録前によく読み、十分に理解して下さい。

(1) 重要事項

本校の生徒は、在籍部基礎時間帯（1部1～4校時、2部3～6校時、3部9～12校時）の科目を登録し、4年で卒業することを基本とします。3年で卒業を希望する人は、在籍部基礎時間帯以外の科目を登録し受講する必要があります。なお、在籍部基礎時間帯以外で受講登録できる単位数は、原則として10単位以内です。ただし、次の人は在籍部基礎時間帯以外の科目を登録することができません（履修制限）。

- ① 入学年度前期、または後期に登録していた科目のうち、修得不認定や履修不認定がある人。後期入学生も含む。
- ② 前年度に受講登録した科目のうち、修得不認定や履修不認定がある人（2年次以降）。
- ③ 1年次に、在籍部基礎時間帯以外で受講できる単位数は以下の通りです。
1部：8単位以内（前期及び後期） 2, 3部：4単位以内（後期のみ）
1年次前期に、受講科目を1科目でも未修得（又は未履修）の場合、後期に受講登録していた在籍部基礎時間帯以外の科目の登録は抹消されます。

(2) 受講登録のルール

- ① 「数学Ⅰa」「数学Ⅰb」など科目名の後についているa、bの記号は受講の順序を示しています。「数学Ⅰa・b」「数学Ⅱa・b」「英語CⅠa・b」等は、それぞれ同一年度に受講登録して下さい。
- ② 芸術（「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」）は1科目のみ受講できます。
- ③ 「体育」「ノーマライゼーション」「総合的な探究の時間」は、自分の所属部基礎時間帯でのみ受講できます。
- ④ **木曜の5、6限は、2部の生徒のみ受講できます。**ただし、「対人援助」「地域社会への支援」「保育基礎」はどの部の生徒も受講できます。
- ⑤ 受講登録人数により、講座を開講しない場合があります。また、前期と後期の登録科目が入れ替わることがあります。
（例）「歴史総合前」「化学基礎後」→「化学基礎前」「歴史総合後」
- ⑥ 学校設定科目は20単位まで卒業単位に加えることができます。（学校設定科目についてはP12「開講科目一覧」を参照して下さい。）

2 受講登録・時間割作成の手順

(1) 自分自身のことをじっくり考える

自分の興味・関心、ライフサイクル、将来の夢、進路実現等に応じて自分だけの時間割を作ることができるのが本校の特色の一つです。高校生活でやってみたいことや卒業後の生活、将来の職業等をしっかり考え、個人面談の時、担当の先生に相談して下さい。どんな進路があるのか自分で調べたり、先生方に聞いたりして、色々な可能性を探ることが大切です。

(2) 将来の夢、卒業後の進路等を具体的に考える

ア 本校卒業後の進路の方向性を確認しよう。

進学を希望する場合、4年制大学、短期大学、専門学校等が考えられます。学部、学科、コース等も多数あり、それぞれで入試の受験科目も異なります。また、就職を希望する場合も様々な業種、職種等があります。しっかり調べておきましょう。

イ 将来の夢やなりたい職業等を検討してみよう。

それぞれの職業によって必要な資格や条件があります。大学や専門学校を卒業しないとできない職業もありますから、注意が必要です。

(3) 卒業する年月を考える

高等学校の在籍期間は通算3年が必要です。一般的に1日4時間の受講登録で4年の卒業となりますが、1日6時間の受講登録をすれば3年で卒業も可能です。（P9「受講登録にあたっての注意事項」参照）

卒業条件が満たされれば、後期3月又は、前期9月に卒業となります。

前籍がある人は個人によって条件が異なります。在籍期間、修得単位、卒業のための条件を担当の先生と確認してから受講登録してください。

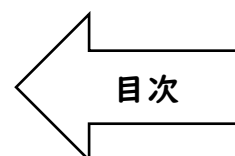
(4) 在籍期間での受講計画を考える

ア 将来の夢、卒業後の進路を見据えて必要な科目を確認しよう。

イ 必要な科目の受講年度を確認しよう。

ウ 必履修科目を確認しよう。

エ その他、興味・関心のある科目等を確認しよう。



<MEMO>

目次

3 令和7年度 開講科目

教科	科 目	単位数
国語	現代の国語	2
	言語文化	2
	文学国語	4
	古典探究	4
	* 国語入門1	2
	* 国語入門2	2
	* 現代文中級	2
	* 現代文上級	2
	* 発展国語	4
地理 歴史	地理総合	2
	地理探究	4
	歴史総合	2
	世界史探究	4
	日本史探究	4
	* 発展世界史	4
	* 発展日本史	4
公民	公共	2
	倫理	2
	政治・経済	2
	* 時事問題研究	2
数学	数学Ⅰ	4(2)
	数学Ⅱ	4
	数学Ⅲ	2
	数学A	2
	数学B	2
	数学C	2
	* 数学入門1	2
	* 数学入門2	2
	* 数学実践	2
	* 実用数学	2
	* 数学探究	2
理科	科学と人間生活	2
	物理基礎	2
	物理	4
	化学基礎	2
	化学	4
	生物基礎	2
	生物	4
	地学基礎	2
	* 自然科学探究	2

教科	科 目	単位数
保健体育	体育	1～2
	保健	1
芸術	音楽Ⅰ	2
	音楽Ⅱ	2
	美術Ⅰ	2
	美術Ⅱ	2
	書道Ⅰ	2
	書道Ⅱ	2
外国語	英語コミュニケーションⅠ	4(2)
	英語コミュニケーションⅡ	4
	論理・表現Ⅰ	2
	* 英語入門	2
	* 発展英語	4
家庭	家庭基礎	2
情報	情報Ⅰ	2
商業	情報処理	2
	簿記	4
	プログラミング	2
	課題研究	2
家庭	保育基礎	2
	服飾手芸	2
	フードデザイン	2
福祉	介護福祉基礎	4
キャリア	* キャリア開拓	2
共生社会 と人間	* ノーマライゼーション	2
	* 対人援助	2
	* 地域社会への支援	2
	* キャリアプランニング	2
自立活動	基礎社会技術	2
総合的な探究の時間	総合的な探究の時間	1

* 印:学校設定科目

※数学Ⅰ及び英語コミュニケーションⅠは2単位か、4単位のいずれかを受講すること

目次

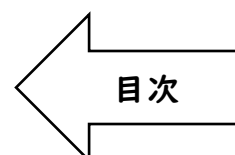
4 旧教育課程生徒の未履修・未修得科目の再履修について

旧教育課程の生徒(令和3年以前入学生)は、以下の通り新課程科目に読み替えて選択してください。

教 科	旧課程科目	読み替え科目
国 語	国語総合a	「現代の国語」or「言語文化」
	国語総合b	「現代の国語」or「言語文化」
	現代文 Ba	「文学国語a」
	現代文 Bb	「文学国語b」
	古典 A	読み替え科目なし
	古典 Ba	「古典探究a」
	古典 Bb	「古典探究b」
地 歴	世界史A	「歴史総合」
	世界史Ba	「世界史探究a」
	世界史Bb	「世界史探究b」
	日本史 A	読み替え科目なし
	日本史Ba	「日本史探究a」
	日本史Bb	「日本史探究b」
	地理 A	「地理総合」
	地理Ba	「地理探究a」
	地理Bb	「地理探究b」
公 民	現代社会	「公共」
数 学	数学Ⅲa	「数学Ⅲ」※R6 より減単(3 単位→2 単位)
	数学Ⅲb	「数学 C」
外国語	C 英語 I a	「英語C I a」
	C英語 I b	「英語C I b」
	C英語 II a	「英語C II a」
	C英語 II b	「英語C II b」
	英語表現 I	「論理・表現 I」
情 報	社会と情報	「情報 I」
家 庭	子どもの発達と保育	「保育基礎」

※旧課程と新課程で科目名が変わらないものは省略している。

※旧教育課程の科目を修得すると、新教育課程の読み替え科目を履修することはできません。



5 各教科の科目説明及び進路希望に応じた受講順序等

国語

◎:受講に適している ○:受講できる

△:やむを得ない場合、受講できる ×:受講に適さない

教科名	科目名	単位数	希望進路				適正年次	備考
			大学	短大	専門学校	就職		
国語	現代の国語	2	○	○	○	○	1年次	必修科目
	言語文化	2	○	○	○	○	1年次	必修科目
	文学国語	4	○	○	○	○	2年次以降	国語総合（R3年度まで）もしくは、現代の国語および言語文化の履修後に受講
	古典探究	4	◎	×	×	×	2年次以降	国語総合（R3年度まで開講）もしくは、現代の国語および言語文化の履修後に受講。難関大学進学希望者は2年次に受講すること
	国語入門Ⅰ	2	×	○	○	○	2年次	「現代文B」もしくは「文学国語」を受講する（した）者は受講できない
	国語入門Ⅱ	2	×	○	○	○	2年次	「現代文B」もしくは「文学国語」を受講する（した）者は受講できない
	現代文中級	2	◎	○	×	×	2年次以降（2年次後期が望ましい）	国語総合（R3年度まで）もしくは、現代の国語および言語文化の履修後に受講。私立大学への進学希望者を対象とする
	現代文上級	2	◎	○	×	×	2年次以降（3年次前期が望ましい）	国語総合（R3年度まで）もしくは、現代の国語および言語文化の履修後に受講。私立大学への進学希望者を対象とする
	発展国語	4	○	×	×	×	卒業年次	大学入学共通テストを受験する者、難関大学を受験する者を対象とする。

目次

＜注意事項＞

(1) 必履修科目は、「現代の国語」「言語文化」です。令和 3 年度まで開講されていた「国語総合 a」または「国語総合b」を再履修する場合、「現代の国語」「言語文化」のどちらかを選択して受講してください。

(2) 「文学国語」「古典探究」は「国語総合 a」「国語総合b」(令和 3 年度まで)もしくは、「現代の国語」および「言語文化」の履修後でなければ受講できません。

(3) 「古典探究」は、必履修の古典分野を発展、深化させる科目です。入試で古典が必要となる者の学習にも対応します。教科書購入時に副教材費として 600 円程度必要です。

(4) 「国語入門1・2」は、「現代文 B」(令和 4 年度まで)、もしくは「文学国語」を受講する(した)者は受講できません。

(5) 「国語入門1」は小学校中学年～中学校前半、「国語入門2」は中学校で習う国語の基礎的な内容の学び直しを目的にした講座です。現在の自分の国語の学力をよく考えた上で受講するか決めてください。教科書購入時に副教材費としてそれぞれ 600 円程度必要です。

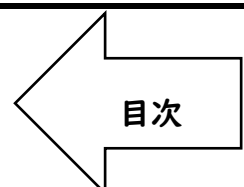
(6) 「現代文中級」「現代文上級」は、入試で現代文が必要な進学希望者対象の授業です。

「現代文中級」は、2年次後期受講を推奨します。教科書購入時に副教材費として 1,400 円程度必要です。「現代文上級」は、3年次前期受講を推奨します。教科書購入時に副教材費として 1,400 円程度必要です。

(7) 「発展国語」は大学入学共通テスト受験者対象の授業です。内容は、古典(古文・漢文)、現代文の問題演習です。教科書購入時に副教材費として 3,500 円程度必要です。

講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
現代の国語	2	前期・後期	必履修	標準
教科書	第一学習社 「高等学校 標準現代の国語」	副教材	補助プリント	
受講対象	(◎) 1年次生向け (○) 2年次生向け (○) 3・4年次生向け () 卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応 (○) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 () その他			
受講条件	・特になし			
学習目標	・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけます。 ・考える力や想像する力を伸ばし、人とかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにします。			
学習方法	・授業は教科書を中心に実施し、補助プリント等の副教材も適宜使用します。			
評価方法	・単元テスト、小テスト、提出物、授業態度などを総合して評価します。 ・出席していても授業に参加していなければ単位の修得はできません。			
その他	・令和3年度まで開講されていた「国語総合a」「国語総合b」を再履修する場合、下記の通り受講してください。 ①「国語総合a」を再履修……………「現代の国語」または「言語文化」を受講 ②「国語総合b」を再履修……………「現代の国語」または「言語文化」を受講 ③「国語総合a」と「国語総合b」を再履修……「現代の国語」と「言語文化」を受講			

講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
言語文化	2	前期・後期	必履修	標準
教科書	第一学習社 「高等学校 標準言語文化」	副教材	補助プリント	
受講対象	(◎) 1年次生向け (○) 2年次生向け (○) 3・4年次生向け () 卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応 (○) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 () その他			
受講条件	・特になし			
学習目標	・近現代の文章と古典(古文・漢文)の学習を通して読解力を養成し、言語で表現する力を高めます。 ・多様な文章に触れることを通じて思考力や想像力を伸ばし、言語文化への理解を深めます。			
学習方法	・授業は教科書を中心に実施し、補助プリント等の副教材も適宜使用します。			
評価方法	・単元テスト、小テスト、提出物、授業態度などを総合して評価します。 ・出席していても授業に参加していなければ単位の修得はできません。			

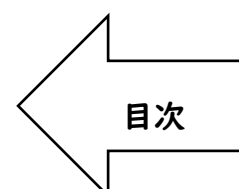


講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
文学国語a	2	前期	選択	応用
文学国語b	2	後期	選択	応用
教科書	東京書籍「文学国語」		副教材	補助プリント
受講対象	() 1年次生向け (○) 2年次生向け (◎) 3・4年次生向け () 卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応 (○) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 () その他			
受講条件	・「国語総合」(令和3年度まで開講)もしくは、「現代の国語」および「言語文化」を履修していること。			
学習目標	・明治時代以降の文学作品に幅広く触れ、確かな読解力と表現力を養成します。 ・多様な文章に触れることを通じて思考力や想像力を伸ばすとともに言語に対する感覚を磨きます。			
学習方法	・授業は教科書を中心に実施し、補助プリント等の副教材も適宜使用します。			
評価方法	・単元テスト、小テスト、提出物、授業態度などを総合して評価します。 ・出席していても授業に参加していなければ単位の修得はできません。			
その他	・「国語総合」(令和3年度まで開講)、「現代の国語」および「言語文化」で学んだことを発展させ、深めた内容になります。			

講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
古典探究a	2	前期	選択	応用
古典探究b	2	後期	選択	応用
教科書	東京書籍「新編古典探究」		副教材	数研出版「体系古典文法」 補助プリント
受講対象	(×) 1年次生向け (◎) 2年次生向け (○) 3・4年次生向け () 卒業予定生向け (◎) 大学・短大進学対応 (×) 専門学校進学対応 (×) 就職対応 () その他			
受講条件	・「国語総合」(令和3年度まで開講)もしくは、「現代の国語」および「言語文化」を履修していること。 ・難関大学進学希望者は、2年次に受講すること。			
学習目標	・古典(古文・漢文)の文学作品に幅広く触れることで古文・漢文の文法を理解し、読解する力を養います。 ・古人の思想や心情に触れることで感受性を豊かにし、伝統的な言語文化への理解を深めます。			
学習方法	・授業は教科書を中心に実施し、補助プリント等の副教材も適宜使用します。			
評価方法	・単元テスト、提出物、授業態度などを総合して評価します。 ・出席していても、授業に参加していなければ単位の修得はできません。			
その他	・受講の際には副教材の購入(600円程度)が必要になります。 ※学習会で購入済みの者は不要。 ・「国語総合」(令和3年度まで開講)もしくは「言語文化」の古典分野で学んだことを発展させ、深めた内容になります。「国語総合」もしくは「言語文化」で学んだ、古典文法の基礎、漢文の読み方、書き下し文のつくり方を理解していることが、学習の前提になります。			

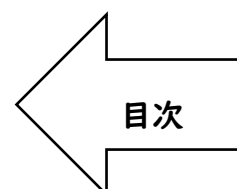
講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
国語入門Ⅰ		2	前期	選択	標準
教科書	なし		副教材	尚文出版「常用漢字オールクリア 五訂版」・補助プリント	
受講対象	()1年次生向け(◎)2年次生向け(○)3・4年次生向け()卒業予定生向け (×)大学・短大進学対応(○)専門学校進学対応(○)就職対応()その他				
受講条件	・国語の基礎的な内容を学び直したい者。 ・「現代文B」もしくは「文学国語」を受講する(した)者は受講できません。				
学習目標	・小学校中学年～中学校前半の基本的な内容を学び直し、基礎的な学力の定着を目指します。 ・文章を書く力やコミュニケーション能力など、日常的な国語力を育成します。				
学習方法	・問題集や補助プリントなどを使用した授業を行います。				
評価方法	・小テスト、提出物、授業態度などを総合して評価します。 ・出席していても授業に参加していなければ単位の修得はできません。				
その他	・受講の際には問題集の購入(600円程度)が必要になります。 ・「国語入門Ⅰ」「国語入門Ⅱ」は、どちらを先に受講してもかまいません。 (例)2年次で「国語入門Ⅱ」を受講してから、3年次で「国語入門Ⅰ」を受講することが可能です。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
国語入門2		2	後期	選択	標準
教科書	なし		副教材	尚文出版「常用漢字ダブルクリア 五訂版」・補助プリント	
受講対象	()1年次生向け(◎)2年次生向け(○)3・4年次生向け()卒業予定生向け (×)大学・短大進学対応(○)専門学校進学対応(○)就職対応()その他				
受講条件	・国語の基礎的な内容を学び直したい者。 ・「現代文B」もしくは「文学国語」を受講する(した)者は受講できません。				
学習目標	・中学校の国語の基本的な内容を学び直し、基礎的な学力の定着を目指します。 ・文章を書く力やコミュニケーション能力など、日常的な国語力を育成します。				
学習方法	・問題集や補助プリントなどを使用した授業を行います。				
評価方法	・小テスト、提出物、授業態度などを総合して評価します。 ・出席していても授業に参加していなければ単位の修得はできません。				
その他	・受講の際には問題集の購入(600円程度)が必要になります。 ・「国語入門1」「国語入門2」は、どちらを先に受講してもかまいません。 (例)2年次で「国語入門2」を受講してから、3年次で「国語入門1」を受講することが可能です。				

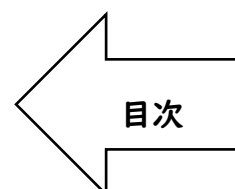
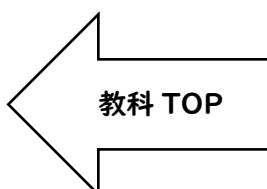


講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
現代文中級		2	後期	選択	応用
教科書	なし		副教材	・明治書院「現代を読む はじめての評論文 20 選 改訂版」 ・明治書院「読解演習 はじめての 評論文 20 選 改訂版」	
受講対象	(×) 1 年次生向け (◎) 2 年次生向け (○) 3・4 年次生向け (○) 卒業予定生向け (◎) 大学・短大進学対応 (△) 専門学校進学対応 (×) 就職対応 (×) その他				
受講条件	・「国語総合」(令和3年度まで開講)もしくは、「現代の国語」および「言語文化」を履修していること。 ・入試で現代文が必要な進学希望者を対象とする。				
学習目標	・現代の文章に幅広く触れ、読解力を向上させるとともに、現代社会の諸問題に向き合う態度を養います。 ・現代文の入試に対応する力を身につけることを目指します。				
学習方法	・テキストの文章を読んで現代的なテーマへの理解を図った上で、傍用の問題集を使用し演習します。 ・随時、評論テーマや語彙に関する小テストを実施します。				
評価方法	・小テスト、授業態度などを総合して評価します。 ・出席していても授業に参加していなければ単位の修得はできません。				
その他	・受講の際には、テキストの購入(1,400円程度)が必要です。・現代文上級は、現代文中級よりも難易度が高いです。 ・2 年次後期に受講することが望ましいです。・現代文中級を履修した後に、現代文上級を履修することが望ましいです。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
現代文上級		2	前期	選択	応用
教科書	なし		副教材	・明治書院「現代を読む 評論文 20 選 ステップアップ改訂版」 ・明治書院「読解演習 評論文 20 選 ステップアップ改訂版」	
受講対象	(×) 1 年次生向け (○) 2 年次生向け (◎) 3・4 年次生向け (◎) 卒業予定生向け (◎) 大学・短大進学対応 (△) 専門学校進学対応 (×) 就職対応 (×) その他				
受講条件	・「国語総合」(令和3年度まで開講)もしくは、「現代の国語」および「言語文化」を履修していること。 ・入試で現代文が必要な進学希望者を対象とする。				
学習目標	・現代の文章に幅広く触れ、読解力を向上させるとともに、現代社会の諸問題に向き合う態度を養います。 ・現代文の入試に対応する力を身につけることを目指します。				
学習方法	・テキストの文章を読んで現代的なテーマへの理解を図った上で、傍用の問題集を使用し演習します。 ・随時、評論テーマや語彙に関する小テストを実施します。				
評価方法	・小テスト、授業態度などを総合して評価します。 ・出席していても授業に参加していなければ単位の修得はできません。				
その他	・受講の際には、テキストの購入(1,400円程度)が必要です。 ・3 年次前期に受講することが望ましいです。 ・現代文上級は、現代文中級よりも難易度が高いです。 ・現代文中級を履修した後に、現代文上級を履修することが望ましいです。				



講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
発展国語 a		2	前期	選択	応用
発展国語 b		2	後期	選択	応用
教科書	なし		副教材	尚文出版「共通テスト+センター試験 国語過去問題 令和3～令和6年+プレテスト 総合版」 他	
受講対象	() 1年次生向け () 2年次生向け () 3・4年次生向け (◎) 卒業予定生向け (○) 大学進学対応 (×) 短大、専門学校進学対応 (×) 就職対応 (×) その他				
受講条件	・「大学入学共通テスト」での高得点、難関大学合格を目指す者。				
学習目標	・現代文、古典の読解力を養います。特に「発展国語 a」では、古典文法・漢文句形を徹底的に学びます。 ・「大学入学共通テスト」で高得点をとることを目指します。				
学習方法	・授業は、大学入学共通テストの過去問演習を中心に実施し、古文・漢文の文法書の副教材も適宜使用します。随時、古文単語・古典文法・漢文句形などの小テストを実施します。				
評価方法	・小テスト、授業態度などを総合して評価します。 ・出席していても授業に参加していなければ単位の修得はできません。				
その他	・副教材について 「共通テスト+センター試験 国語過去問題 令和3～令和6年+プレテスト 総合版」(尚文出版)、「読んで見て覚える古文単語315」(桐原書店)、「読解を大切に体系古典文法」(数研出版)、「漢文学習必携」(啓隆社)、「体系古典文法準拠ノート」(数研出版) 購入費用として 3,500 円程度必要です。				



地理歴史

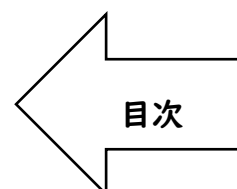
◎:受講に適している ○:受講できる

△:やむを得ない場合、受講できる ×:受講に適さない

教科名	科目名	単位数	希望進路				適正年次	備考
			大学	短大	専門学校	就職		
地 理 歴 史	歴史総合	2	◎	◎	◎	◎	1年次	旧課程の生徒で世界史 A 未履修者は受講すること
	日本史探究	4	◎	○	○	○	2年次以降	新課程の生徒は歴史総合履修後
	世界史探究	4	◎	○	○	○	2年次以降	新課程の生徒は歴史総合履修後
	地理総合	2	◎	◎	◎	◎	2年次	
	地理探究	4	◎	○	○	○	3年次以降	新課程の生徒は地理総合履修後
	発展日本史	4	◎	×	×	×	卒業年次	資料等を活用しより深く学ぶ
	発展世界史	4	◎	×	×	×	卒業年次	資料等を活用しより深く学ぶ

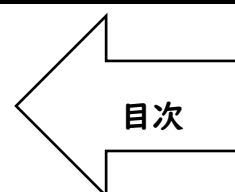
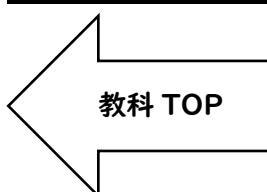
<注意事項>

- (1) 旧課程の生徒の必履修科目は、「世界史A or 歴史総合」、「世界史B or 世界史探究」どちらか1科目と「日本史A」「日本史B or 日本史探究」「地理A or 地理総合」「地理B or 地理探究」の中から1科目です。新課程の生徒の必履修科目は、「歴史総合」と「地理総合」の2科目です。
- (2) 「歴史総合」と「日本史探究」「世界史探究」は同一年度に受講することができない。
- (3) 「地理総合」と「地理探究」は同一年度に受講することができない。
- (4) 「発展日本史」「発展世界史」は「日本史B or 日本史探究」「世界史B or 世界史探究」をそれぞれ履修したか、同時に受講登録をすること。
- (5) 大学等の受験科目に地歴がある人は、「日本史探究」「世界史探究」「地理探究」を受講することが望まれます。
- (6) 「発展日本史」「発展世界史」は副教材の購入が必要です。



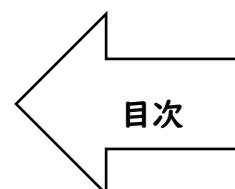
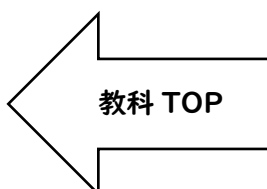
講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
歴史総合		2	前期・後期	必修	標準
教科書	実教出版「歴史総合」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(◎) 1年次生向け(△) 2年次生向け(△) 3・4年次生向け(△) 3卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応(○) 専門学校進学対応(○) 就職対応(○) その他				
受講条件	・新入生か、「歴史総合」「世界史A」の単位を修得していない生徒のみ受講可能。 ・「日本史探究」「世界史探究」と同一年度に受講できません。				
学習目標	・社会的事象の歴史的な見方・考え方を身につけ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際社会に主体的に生きるために必要な資質・能力を育成することを目標としています。				
学習方法	・教科書、副教材、プリントを使った授業をします。 ・プリントを完成させていながら、内容を理解しようとしてください。				
評価方法	・授業内の活動への取組状況、授業態度、授業プリントおよび課題の提出状況、授業内で実施する小テストやまとめテストの成績などを総合的に評価し、成績をつけます。				
その他	・特になし。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
日本史探究a		2	前期	選択	標準
日本史探究b		2	後期	選択	標準
教科書	東京書籍「日本史探究」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(×)1年次生向け(◎)2年次生向け(◎)3・4年次生向け(○)3卒業予定生向け (◎)大学・短大進学対応(○)専門学校進学対応(○)就職対応(○)その他				
受講条件	・新課程の生徒は「歴史総合」を履修していること。 ・「歴史総合」と同一年度に受講できない。				
学習目標	・日本の歴史を、古代から近現代まで幅広く学習します。日本の文化と歴史の特色について認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に生きるための資質を養うことを目標とします。				
学習方法	・教科書とプリントを中心とした授業をします。 ・毎回しっかりとプリントを完成し、内容を理解しようと努めて下さい。				
評価方法	・授業プリント、小テスト、単元テスト、課題の提出、授業内活動の成果、授業態度等を総合的に評価します。				
その他	・大学入試科目に「日本史B or 日本史探究」がある場合は、必ず受講して下さい。				



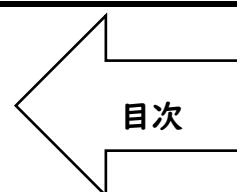
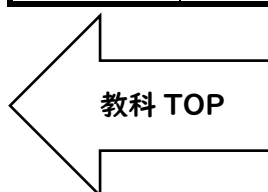
講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
世界史探究a		2	前期	選択	標準
世界史探究b		2	後期	選択	標準
教科書	第一学習社 「高等学校 世界史探究」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(×) 1年次生向け (◎) 2年次生向け (◎) 3・4年次生向け (○) 3卒業予定生向け (◎) 大学・短大進学対応 (○) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 (○) その他				
受講条件	・新課程の生徒は「歴史総合」を履修していること。 ・「歴史総合」と同一年度に受講できない。				
学習目標	・社会的事象の歴史的な見方・考え方を身につけ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際社会に主体的に生きるために必要な資質・能力を育成することを目標とします。				
学習方法	・教科書とプリントを中心とした授業をします。 ・毎回しっかりとプリントを完成し、内容を理解しようと努めて下さい。				
評価方法	・授業プリント、小テスト、単元テスト、課題の提出、授業内活動の成果、授業態度等を総合的に評価します。				
その他	・大学入試科目に「世界史B or 世界史探究」がある場合は、必ず受講して下さい。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
地理総合		2	前期・後期	必修	標準
教科書	帝国書院「高校生の地理総合」 二宮書店「詳解現代地図」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(×) 1年次生向け (◎) 2年次生向け (△) 3・4年次生向け (△) 3卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応 (○) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 (○) その他				
受講条件	・「地理探究」と同一年度に受講できない。				
学習目標	・現代世界についての基本的な地理的内容を学習します。地理的なものの見方を培うことによって、国際社会に主体的に生きる資質を養うことを目標とします。				
学習方法	・教科書と地図帳、プリントを中心とした授業をします。作業学習も多く取り入れています。 ・地図や資料を読解する力を養い、内容を理解しようとして下さい。				
評価方法	・授業プリント、小テスト、単元テスト、課題の提出、授業内活動の成果、授業態度等を総合的に評価します。				
その他	・特になし。				

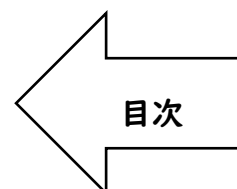
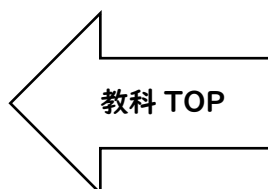


講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
地理探究a		2	前期	選択	標準
地理探究b		2	後期	選択	標準
教科書	二宮書店「地理探究」 二宮書店「詳解現代地図」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(×)1年次生向け(×)2年次生向け(◎)3・4年次生向け(○)3卒業予定生向け (◎)大学・短大進学対応(○)専門学校進学対応(○)就職対応(○)その他				
受講条件	・新課程の生徒は、「地理総合」を履修していること。 ・「地理総合」と同一年度に受講できない。				
学習目標	・社会的事象の地理的な見方・考え方を身につけ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる資質・能力を養うことを目標とします。				
学習方法	・教科書と地図帳、プリントを中心とした授業をします。作業学習も多く取り入れています。 ・地図や資料を読解する力を養い、内容を理解しようとして下さい。				
評価方法	・授業での学習への取り組みを中心に評価します。 ・課題へ取り組む姿勢と提出物の内容、授業態度等です。				
その他	・大学入試科目に「地理探究」がある場合は、必ず受講して下さい。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
発展日本史a		2	前期	選択	標準
発展日本史b		2	後期	選択	標準
教科書	なし ※【その他】を参照		副教材	プリント等(授業中に配布) 浜島書店「新詳日本史」	
受講対象	(×)1年次生向け(×)2年次生向け(△)3・4年次生向け(◎)3卒業予定生向け (◎)大学・短大進学対応(×)専門学校進学対応(×)就職対応(×)その他				
受講条件	・「日本史B」「日本史探究」を履修したか、同時に受講登録をすること。 ・4年制大学進学を志望する者を対象とする。				
学習目標	・4年制大学入試の受験対策を目的としています。前期は近現代史を中心に「日本史探究」の教科書を仕上げ、後期はテーマ史と問題演習を中心に、実力の養成に努めます。				
学習方法	・プリントや問題演習を中心とした学習を行います。 ・プリントを完成させていながら、内容を理解しようとしてください。				
評価方法	・授業内での取り組み状況、授業態度、授業プリントおよび課題の提出状況、授業内で実施する小テストやまとめテストの成績などから総合的に評価し、成績をつけます。				
その他	・日本史Bまたは日本史探究で使用した東京書籍「新選日本史B」「日本史探究」を使用。 ・副教材購入費用として957円必要です。				



講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
発展世界史a	2	前期	選択	標準
発展世界史b	2	後期	選択	標準
教科書	なし ※【その他】を参照		副教材	プリント等(授業中に配布) 「最新世界史図説 タペストリー」(帝国書院)
受講対象	(×)1年次生向け(×)2年次生向け(△)3・4年次生向け(◎)3卒業予定生向け (◎)大学・短大進学対応(×)専門学校進学対応(×)就職対応(×)その他			
受講条件	・「世界史B」「世界史探究」を履修したか、同時に受講登録をすること。 ・4年制大学進学を志望する者を対象とする。			
学習目標	・4年制大学入試の受験対策を目的としています。前期は近現代史を中心に「世界史B」「世界史探究」の教科書を仕上げ、後期はテーマ史と問題演習を中心に、実力の養成に努めます。			
学習方法	・プリントや問題演習を中心とした学習を行います。 ・プリントを完成させていきながら、内容を理解しようとしてください。			
評価方法	・授業内での取り組み状況、授業態度、授業プリントおよび課題の提出状況、授業内で実施する小テストやまとめテストの成績などから総合的に評価し、成績をつけます。			
その他	・世界史Bまたは世界史探究で使用した教科書(東京書籍「新選世界史B」または第一学習社「高等学校 世界史探究」)を使用します。 ・副教材の購入費用に957円必要です。			



公民

◎:受講に適している

○:受講できる

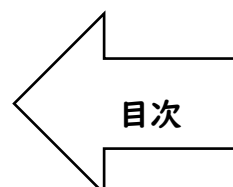
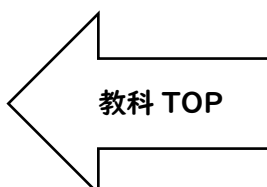
△:やむを得ない場合、受講できる

×:受講に適さない

教科名	科目名	単位数	希望進路				適正年次	備考
			大学	短大	専門学校	就職		
公 民	公共	2	◎	○	○	○	2年次	旧課程の生徒で現代社会 未履修者は受講すること
	政治・経済	2	◎	○	○	○	3年次 以降	現代社会または公共 履修後に選択
	倫理	2	◎	○	○	○	3年次 以降	現代社会または公共 履修後に選択
	時事問題研究	2	○	○	○	○	3年次 年次	現代社会または公共 履修後に選択

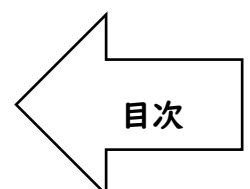
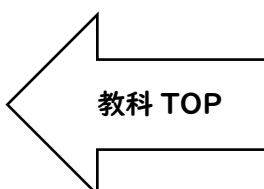
<注意事項>

- (1) 旧課程の生徒の必履修科目は「現代社会」「公共」のどちらか1科目、または「倫理」と「政治・経済」です。新課程の生徒の必履修科目は「公共」です。
- (2) 「倫理」、「政治・経済」、「時事問題研究」は、「現代社会」「公共」履修後でなければ受講できません。



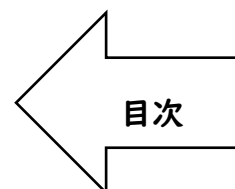
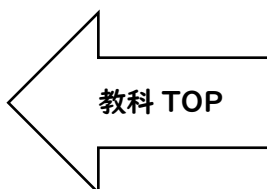
講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
公共		2	前期・後期	必修	標準
教科書	帝国書院「高等学校 公共」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(×) 1年次生向け (◎) 2年次生向け (△) 3・4年次生向け (△) 3卒業予定生向け (◎) 大学・短大進学対応 (○) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 (○) その他				
受講条件	・特になし				
学習目標	・現代社会の基本的な問題について理解を深め、良識ある公民として必要な能力と態度を 培うことを目標としています。				
学習方法	・教科書、副教材、プリントを使った授業をします。 ・プリントを完成させていながら、内容を理解しようとしてください。				
評価方法	・授業内の活動への取組状況、授業態度、授業プリントおよび課題の提出状況、授業内で 実施する小テストやまとめテストの成績などを総合的に評価し、成績をつけます。				
その他	・原則、2年次までに履修すること。 ・旧課程の生徒で、現代社会を履修していない生徒は履修すること。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
政治・経済		2	前期・後期	選択	標準
教科書	実況出版「最新政治・経済」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(×)1年次生向け(×)2年次生向け(○)3・4年次生向け(○)3卒業予定生向け (◎)大学・短大進学対応(○)専門学校進学対応(○)就職対応(○)その他				
受講条件	・「現代社会」または「公共」履修後でなければ受講できない。				
学習目標	・政治や経済の仕組みやその背景を理解し、現代の社会で起きている事柄を深く洞察する力を培う。現代社会を主体的に生きていく資質を養うことを目標とする。				
学習方法	・教科書、副教材、プリントを使った授業をします。 ・プリントを完成させていしながら、内容を理解しようとしてください。				
評価方法	・授業内の活動への取組状況、授業態度、授業プリントおよび課題の提出状況、授業内で実施する小テストやまとめテストの成績などを総合的に評価し、成績をつけます。				
その他	・大学入試科目に「政治・経済」がある場合は、必ず受講して下さい。				



講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
倫理		2	前期・後期	選択	標準
教科書	清水書院「高等学校 新倫理」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(×) 1年次生向け(×) 2年次生向け(○) 3・4年次生向け(○) 3卒業予定生向け (◎) 大学・短大進学対応(○) 専門学校進学対応(○) 就職対応(○) その他				
受講条件	・「現代社会」または「公共」履修後でなければ受講できない。				
学習目標	・先人の思想を広く学びながら、現代社会を主体的に生きる自己の確立を目指すとともに、人間尊重の精神と生命に対する畏怖の念を培うことを目標としています。				
学習方法	・教科書、副教材、プリントを使った授業をします。 ・プリントを完成させていながら、内容を理解しようとしてください。				
評価方法	・授業内の活動への取組状況、授業態度、授業プリントおよび課題の提出状況、授業内で実施する小テストやまとめテストの成績などを総合的に評価し、成績をつけます。				
その他	・大学入試科目に「倫理」がある場合は、必ず受講して下さい。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
時事問題研究		2	前期・後期	選択	標準
教科書	なし		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(×) 1年次生向け(×) 2年次生向け(○) 3・4年次生向け(○) 3卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応(○) 専門学校進学対応(○) 就職対応(○) その他				
受講条件	・「現代社会」または「公共」履修後でなければ受講できない。				
学習目標	・私たちの身の回りで起こっている政治分野や経済分野を中心とするさまざまな問題を取り上げていきます。現代社会を主体的に生きていく力を養うことを目標としています。				
学習方法	・プリント中心の学習です。テレビのニュースや新聞記事などを取り上げていきます。 ・日頃から社会のニュースに関心を持つようにして下さい。				
評価方法	・課題テスト、レポート、平常点で評価します。 ・平常点は、プリントの完成、課題の提出、授業態度等です。				
その他	・特になし。				



数学

◎：受講に適している

○：受講できる

△：やむを得ない場合、受講できる

×：受講に適さない

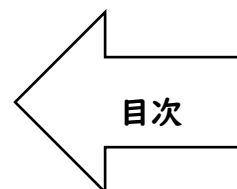
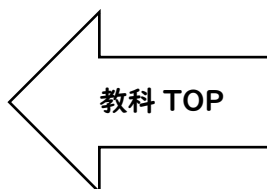
教科名	科目名	単位数	希望進路				適正年次	備考
			大学	短大	専門学校	就職		
数学	数学Ⅰab	4	◎	○	○	○	1年次以降	必修修科目
	数学Ⅰα(アルファ)	2	△	△	○	○	1年次以降	必修修科目
	数学Ⅱ	4	◎	△	△	△	2年次以降	数学Ⅰ履修後に受講
	数学Ⅲ	4	◎	×	×	×	3年次以降	数学Ⅱ履修後に受講 理系大学進学希望者対象
	数学A	2	◎	○	○	○	2年次以降	数学Ⅰと同時または履修後に受講
	数学B	2	◎	△	△	△	2年次以降	数学Ⅰ履修後に受講
	数学C	2	◎	×	×	×	2年次以降	数学Ⅰ履修後に受講
	数学入門Ⅰ	2	×	×	△	○	1年次以降	数学Ⅰと同時または修得前に受講
	数学入門Ⅱ	2	△	△	△	○	1年次以降	数学Ⅰと同時または修得前に受講
	数学実践	2	◎	△	△	×	卒業年次	数学Ⅰと数学Aを履修後に受講することが望ましい。大学進学希望者対象
	実用数学	2	×	×	△	◎	卒業年次	就職希望者対象
	数学探究	2	○	○	○	○	2年次以降	数学Ⅰ履修後に受講

<注意事項>

- (1) 必修修科目は、「数学Ⅰ」です。「数学Ⅰ」については、「数学Ⅰα」「数学Ⅰa」「数学Ⅰb」の2科目が開講されます。卒業には「数学Ⅰα」または「数学Ⅰa」「数学Ⅰb」のどちらかの履修が必要です。
また、「数学Ⅰα」と「数学Ⅰa」「数学Ⅰb」は、どちらか一方しか受講できません。
大学などの受験科目に数学がある場合は、「数学Ⅰa」「数学Ⅰb」の2科目を受講することが望めます。
- (2) 「数学Ⅱ」は、「数学Ⅰα」「数学Ⅰa」「数学Ⅰb」の2科目の履修後でなければ受講することができません。「数学Ⅰa」「数学Ⅰb」の2科目を受講しておくことが望めます。
- (3) 「数学Ⅲ」は、「数学Ⅱa」「数学Ⅱb」の2科目の履修後でなければ受講することができません。
特に3年卒業希望で、「数学Ⅲ」まで受講予定の人は、初年度から「数学Ⅰab」または「数学Ⅰα」を受講しておく必要があります。
- (4) 「数学A」は、「数学Ⅰα」「数学Ⅰa」「数学Ⅰb」の2科目と同時に履修するか、履修後でなければ受講することができません。
- (5) 「数学B」は、「数学Ⅰα」「数学Ⅰa」「数学Ⅰb」の2科目の履修後でなければ受講することができません。「数学Ⅰa」「数学Ⅰb」の2科目を受講することが望めます。
- (6) 「数学C」は、「数学Ⅰα」「数学Ⅰa」「数学Ⅰb」の2科目の履修後でなければ受講することができません。「数学Ⅰa」「数学Ⅰb」の2科目を受講することが望めます。
- (7) 「数学入門Ⅰ」及び「数学入門Ⅱ」は、「数学Ⅰα」「数学Ⅰa」「数学Ⅰb」いずれかの修得後は受講することができません。
- (8) 「数学入門Ⅰ」は、「数学Ⅰα」および「数学入門Ⅱ」を履修するより前に履修することを強く勧めます。
- (9) 「数学実践」は「数学Ⅰ」および「数学A」の履修後に受講することが望めます。

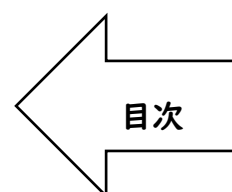
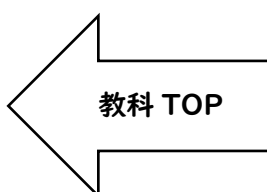
また、大学受験等の受験科目に数学がある人は、受験のある年度に受講することが望めます。

教科書購入時に、副教材費として800円程度が別途必要です。



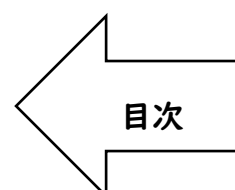
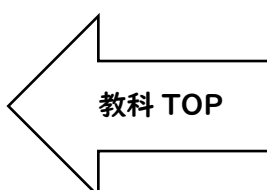
講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
数学Ⅰa		2	前期	必履修	標準
数学Ⅰb		2	後期	必履修	標準
教科書	実教出版「高校数学Ⅰ」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(◎)1年次生向け (○)2年次生向け (○)3・4年次生向け ()卒業予定生向け (◎)大学・短大進学対応 (○)専門学校進学対応 (○)就職対応 ()その他				
受講条件	・数学Ⅰab、数学Ⅰαの両方とも履修することはできません。(どちらか一方のみ)				
学習目標	・数と式、2次関数、三角比、データの分析、命題の内容を理解する。				
学習方法	・授業では教科書を中心に実施し、プリント等の副教材も使用します。 ・基礎事項を学習後、小テストなどの演習を実施し、学力の定着を図ります。				
評価方法	・単元テスト、小テスト、授業態度、提出物を含め、総合的に評価します。				
その他	・大学、短大、専門学校(看護)進学希望者は履修することが望ましい。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
数学Ⅰα(アルファ)		2	前期・後期	必履修	基本
教科書	実教出版「高校数学Ⅰ」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(◎)1年次生向け(○)2年次生向け(○)3・4年次生向け()卒業予定生向け (△)大学・短大進学対応(○)専門学校進学対応(○)就職対応()その他				
受講条件	数学Ⅰab、数学Ⅰαの両方履修することはできません。(どちらか一方のみ)				
学習目標	数と式、2次関数、三角比、データの分析の基礎的な内容を理解する。				
学習方法	・授業では教科書および副教材(プリント)を中心に実施します。 ・基礎事項を学習後、小テスト等の演習を実施し、学力の定着を図ります。				
評価方法	・単元テスト点、小テスト点、出席点、平常点を含め、総合的に評価します。				
その他	・特になし				



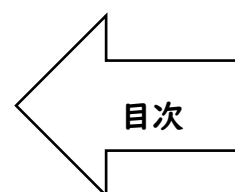
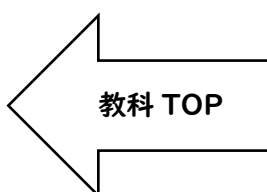
講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
数学Ⅱa		2	前期	選択	標準
数学Ⅱb		2	後期	選択	標準
教科書	実教出版「高校数学Ⅱ」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	()1年次生向け (◎)2年次生向け ()3・4年次生向け ()卒業予定生向け (◎)大学・短大進学対応 (△)専門学校進学対応 (△)就職対応 ()その他				
受講条件	・数学Ⅰ履修後でないと受講できません。 ・大学進学希望者は積極的に受講してください。				
学習目標	・数学Ⅰの内容を基に、複素数, 図形と方程式, 三角関数, 指数関数、対数関数、微分・積分を学習する。				
学習方法	・授業では教科書を中心に実施し、プリント等の副教材も使用します。 ・基礎事項を学習後、小テスト等の演習を実施し、学力の定着を図ります。				
評価方法	・単元テスト点、小テスト点、出席点、平常点(課題等)を含め、総合的に評価します。				
その他	・数学Ⅰの基礎的な知識、技能を修得していることが望ましい。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
数学Ⅲ		2	前期	選択	応用
教科書	実教出版「高校数学Ⅲ」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	()1年次生向け ()2年次生向け (◎)3・4年次生向け ()卒業予定生向け (◎)大学・短大進学対応 (×)専門学校進学対応 (×)就職対応 ()その他				
受講条件	・数学Ⅱ履修後でないと受講できません。 ・理系大学進学希望者は積極的に受講してください。				
学習目標	・数学Ⅰ、Ⅱの内容をもとに、関数とグラフ、微分法、積分法、極限の基本的な知識、技能を習得する。また、応用問題にも取り組む。				
学習方法	・授業では教科書を中心に実施し、プリントなどの副教材も使用します。 ・基礎事項を学習後、小テスト等の演習を実施し、学力の定着を図ります。				
評価方法	・単元テスト点、小テスト点、授業点、平常点を含め、総合的に評価します。				
その他	・数学Ⅰ、Ⅱの基礎的な知識、技能を習得していることが望ましい。				



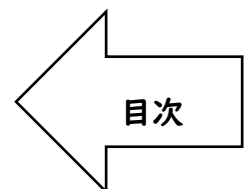
講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
数学A		2	前期・後期	選択	標準
教科書	実教出版「高校数学 A」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(△)1年次生向け (○)2年次生向け (○)3・4年次生向け ()卒業予定生向け (◎)大学・短大進学対応 (○)専門学校進学対応 (○)就職対応 ()その他				
受講条件	・数学Ⅰ履修後、または履修中に受講。				
学習目標	・場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動の内容を理解する。				
学習方法	・授業では教科書を中心に実施し、プリント等の副教材も使用します。 ・基礎事項を学習後、小テスト等の演習を実施し、学力の定着を図ります。				
評価方法	・単元テスト点、小テスト点、授業点、平常点を含め、総合的に評価します。				
その他	・大学、短大、専門学校(看護)進学希望者は履修することが望ましい。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
数学B		2	前期・後期	選択	標準
教科書	実教出版「高校数学 B」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	()1年次生向け (○)2年次生向け (○)3・4年次生向け ()卒業予定生向け (◎)大学・短大進学対応 (△)専門学校進学対応 (△)就職対応 ()その他				
受講条件	・数学Ⅰ履修後に受講。				
学習目標	・数列、統計的な推測の基礎的な知識、技能を習得する。				
学習方法	・授業では教科書を中心に実施し、プリント等の副教材も使用します。 ・基礎事項を学習後、小テスト等の演習を実施し、学力の定着を図ります。				
評価方法	・単元テスト点、小テスト点、授業点、平常点を含め、総合的に評価します。				
その他	・数学の基礎的な計算ができることが望ましい。				



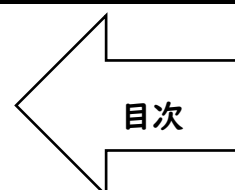
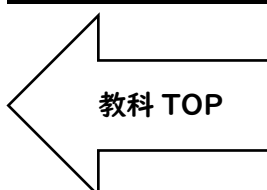
講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
数学C		2	前期	選択	応用
教科書	数研出版「最新 数学 C」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	() 1年次生向け () 2年次生向け () 3・4年次生向け () 卒業予定生向け () 大学・短大進学対応 () 専門学校進学対応 () 就職対応 () その他				
受講条件	・数学Ⅰ履修後に受講。				
学習目標	・ベクトル, 複素数平面, 2次曲線の基礎的な知識、技能を習得する。				
学習方法	・授業では教科書を中心に実施し、プリント等の副教材も使用します。 ・基礎事項を学習後、小テスト等の演習を実施し、学力の定着を図ります。				
評価方法	・単元テスト点、小テスト点、授業点、平常点を含め、総合的に評価します。				
その他	・数学の基礎的な計算ができることが望ましい。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
数学入門Ⅰ		2	後期	選択	基本
教科書	なし		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(◎)1年次生向け (○)2年次生向け (△)3・4年次生向け(△)卒業予定生向け (×)大学・短大進学対応 (△)専門学校進学対応 (○)就職対応 ()その他				
受講条件	・数学Ⅰ修得後は受講できません。				
学習目標	・小学校の算数の基礎的な知識を学習し、数学入門2に継続できる学力を養成します。 ・整数の四則計算等の内容を理解します。				
学習方法	・授業ではプリント教材を中心に実施します。 ・基本事項を学習後、小テスト等の演習を実施し、定着を図ります。				
評価方法	・小テスト点、授業点、平常点を含め、総合的に評価します。				
その他	・特になし。				



講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
数学入門2		2	前期	選択	基本
教科書	なし		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(◎) 1年次生向け (○) 2年次生向け (△) 3・4年次生向け (△) 卒業予定生向け (△) 大学・短大進学対応 (△) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 () その他				
受講条件	・数学Ⅰ修得後は受講できません。				
学習目標	・数学Ⅰに接続できる基礎学力を養成します。 ・分数の四則演算、正負の数の計算、文字式、方程式、図形等の内容を理解します。				
学習方法	・授業ではプリント教材を中心に実施します。 ・基本事項を学習後、小テスト等の演習を通して定着を図ります。				
評価方法	・単元テスト点、小テスト点、授業点、平常点を含め総合的に評価します。				
その他	・特になし				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
数学実践		2	前期	選択	応用
教科書	なし		副教材	・実教出版「大学入試短期集中ゼミ 数学Ⅰ・A 10日あればいい」 ・プリント等(授業中に配布)	
受講対象	()1年次生向け ()2年次生向け ()3・4年次生向け (◎)卒業予定生向け (◎)大学・短大進学対応 (△)専門学校進学対応 (×)就職対応 ()その他				
受講条件	・卒業年次に履修。 ・進学希望者で、入試科目に数学を要する者。				
学習目標	・数学Ⅰ・Aの内容で大学入試レベルの問題を解くことができる。				
学習方法	・基礎事項を学習後、小テスト等の演習を実施し、学力の定着を図ります。				
評価方法	・単元テスト点、小テスト点、授業点、平常点を含め、総合的に評価します。				
その他	・授業後、自主的に復習することが望ましい。 ・副教材費が800円程度必要です。				



講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
実用数学		2	通年 前期	選択	標準
教科書	なし		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	()1年次生向け ()2年次生向け ()3・4年次生向け (◎)卒業予定生向け (×)大学・短大進学対応 (△)専門学校進学対応 (◎)就職対応 ()その他				
受講条件	・卒業年次に履修。				
学習目標	・方程式、速度、割合など、就職試験で出題される数学の一般常識問題を解くことができる。				
学習方法	・授業では配布プリントを使用します。 ・基礎事項を学習後、小テストなどの演習を実施し、学力の定着を図ります。				
評価方法	・単元テスト、小テスト、授業態度、提出物を含め、総合的に評価します。				
その他	特になし				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
数学探究		2	通年 前期・後期	選択	標準
教科書	なし		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	()1年次生向け (○)2年次生向け (○)3・4年次生向け(○)卒業予定生向け (○)大学・短大進学対応 (○)専門学校進学対応 (○)就職対応 (○)その他				
受講条件	・数学Ⅰ履修後に受講。 ・基本的な計算(数学Ⅰで学習する程度)ができる者。 ・日常的な課題に対して、好奇心・探究心を持って、数学的に考えることができる者。				
学習目標	・日常生活で使われている数学の活用例を学んだり、数学的思考力を要する問題に取り組む。				
学習方法	・授業では配布プリントを使用します。 ・毎回1つのテーマについて学習し、授業の最後にレポートや製作物に取り組みます。				
評価方法	毎回の授業ごとに課される提出物を中心とした平常点、出席点を含め、総合的に評価します。				
その他	レポート課題や製作物に積極的に取り組むこと。				

理科

◎:受講に適している

○:受講できる

△:やむを得ない場合、受講できる

×:受講に適さない

教科名	科目名	単位数	希望進路				適正年次	備考
			大学	短大	専門学校	就職		
理科	科学と人間生活	2	△	○	○	○	1・2年次	選択必修修
	物理基礎	2	○	○	○	△	2年次以降	選択必修修
	物理	4	○	△	×	×	3年次以降	物理基礎履修後に受講可能
	化学基礎	2	○	○	○	△	2年次以降	選択必修修
	化学	4	○	△	△	×	3年次以降	化学基礎履修後に受講可能
	生物基礎	2	○	○	○	△	2年次以降	選択必修修
	生物	4	○	△	△	×	3年次以降	生物基礎履修後に受講可能
	地学基礎	2	○	○	○	△	2年次以降	選択必修修
	自然科学探究	2	△	△	○	○	3年次以降	①実習教材費納入後 ②必修科目履修後に受講可能

<注意事項>

- (1) 「科学と人間生活」と基礎科目1科目の履修を満たせば理科の必修修を満たします。
理系の進学を目指す者は、1年次に基礎科目を受講することが望ましい。
- (2) 基礎科目3科目を履修すれば理科の必修修を満たします。
- (3) 医療、看護系の進路希望者は「生物基礎」「生物」を受講することが望ましい。
- (4) 栄養学系の進路希望者は「化学基礎」を受講することが望ましい。
- (5) 理系の大学進学希望者は「物理」・「化学」または「化学」・「生物」の受講が望ましい。
- (6) 「物理」、「化学」、「生物」は、それぞれの基礎科目の履修後でなければ受講できません。
- (7) 「自然科学探究」は、物理・化学・生物・地学について実験・観察を通して理解する科目です。
- (8) 「自然科学探究」では、実習教材費等として500円程度が必要です。
- (9) 「自然科学探究」は、理科の必修修科目履修後に履修可能です。

教科 TOP

目次

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
科学と人間生活		2	前期・後期	必履修	基本
教科書	啓林館 「高等学校 科学と人間生活」		副教材	プリント等	
受講対象	(◎) 1年次生向け (◎) 2年次生向け (○) 3・4年次生向け (○) 3卒業予定生向け (△) 大学・短大進学対応 (○) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 (○) その他				
受講条件	・特になし				
学習目標	・自然と人間生活の関連を学習し、科学的な見方や考え方を養う。 ・「材料とその再利用」「微生物とその利用」「光の性質とその利用」「身近な天体と太陽系における地球」の内容を理解する。				
学習方法	・授業では教科書を中心にして学習を進め、適時プリント教材等を併用します。 ・授業内容の定着を図るため、適時小テストやレポート課題などを実施します。 ・数人のグループに分かれて実験を行うこともあります。				
評価方法	・単元テスト、小テスト、レポート、授業内での取り組みなどを総合的に評価します。				
その他	・「科学と人間生活」と基礎科目Ⅰ科目の履修を満たせば理科の必履修を満たします。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
物理基礎		2	前期・後期	必履修	標準
教科書	東京書籍「新編物理基礎」		副教材	プリント等	
受講対象	(△)1年次生向け (◎)2年次生向け(○)3・4年次生向け(○)3 卒業予定生向け (○)大学・短大進学対応 (○)専門学校進学対応 (○)就職対応 (×)その他				
受講条件	・数Ⅰの基礎的な知識・技能を習得していることが望ましい。				
学習目標	・日常生活と物理学の関わりについて、物理学の基本的な概念や法則を学習し、科学的な考え方を身につける。 ・「物体の運動」「熱」「波」「電気」「エネルギー」について基本的な内容を理解する。				
学習方法	・授業では教科書を中心にして学習を進め、適時プリント教材等を併用します。 ・授業内容の定着を図るため、適時小テストやレポート課題などを実施します。 ・数人のグループに分かれて実験を行うこともあります。				
評価方法	・ノート、プリント、課題、小テスト、レポート、授業内での取り組みなどを総合的に評価します。				
その他	・「科学と人間生活」と基礎科目Ⅰ科目の履修を満たせば理科の必履修を満たします。 ・基礎科目3科目を履修すれば理科の必履修を満たします。 ・「物理a」・「物理b」を受講するには「物理基礎」を履修しなければなりません。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
物理a・物理b		各2	前期・後期	選択	応用
教科書	東京書籍「物理」		副教材	プリント等	
受講対象	()1年次生向け ()2年次生向け (◎)3・4年次生向け (◎)3 卒業予定生向け (○)大学・短大進学対応 (△)専門学校進学対応 (×)就職対応 (×)その他				
受講条件	・「物理基礎」を履修した生徒で、大学進学に「物理」が課されている者が望ましい。				
学習目標	・物理基礎で学習した内容の発展的な部分を取扱い、物理についての理解をより深める。 ・様々な物理現象についての理解を深める。				
学習方法	・授業では教科書を中心にして学習を進め、適時プリント教材等を併用します。 ・授業内容の定着を図るため、適時課題テストやプリント課題などを実施します。 ・数人のグループに分かれて実験を行うこともあります。実験ではレポートを作成します。				
評価方法	・ノート、プリント、課題、課題テスト、レポート、授業内での取り組みなどを総合的に評価します。				
その他	・理系の大学進学希望者は「物理 a・物理b」、「化学 a・化学b」の受講が望ましい。 ・「数学Ⅲ」、「化学基礎」の修得後もしくは履修中であることが望ましい。 ・大学進学希望者対象の授業です。課題に取り組んでから授業に臨むようにしてください。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
化学基礎		2	前期・後期	必修	標準
教科書	実教出版「高校化学基礎」		副教材	プリント等	
受講対象	(△)1年次生向け (◎)2年次生向け (○)3・4年次生向け (○)3卒業予定生向け (○)大学・短大進学対応 (○)専門学校進学対応 (○)就職対応 (△)その他				
受講条件	・小数、分数の計算を修得していることが望ましい。				
学習目標	・化学の基本的な概念や原理・法則を学習し、科学的な見方や考え方を身につける。 ・物質量の概念を理解し、計算ができるようになる。 ・酸・塩基とそれらの中和反応および、酸化還元反応について理解する。				
学習方法	・授業では教科書を中心にして学習を進め、適時プリント教材などを併用します。 ・授業内容の定着を図るため、適時小テストや単元テスト、レポート課題などを実施します。 ・数人のグループに分かれて実験を行うこともあります。				
評価方法	・プリント、小テスト、レポート、授業内での取り組みなどを総合的に評価します。				
その他	・「科学と人間生活」と基礎科目Ⅰ科目の履修を満たせば理科の必修履修を満たします。 ・基礎科目3科目を履修すれば、理科の必修履修を満たします。 ・「化学 a」・「化学 b」を受講するには「化学基礎」を履修しなければなりません。 ・栄養学系の進路希望者は、「化学基礎」を受講することが望ましい。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
化学a・化学b		各2	前期・後期	選択	応用
教科書	東京書籍「化学 vol.1 理論編」、「化学 vol.2 物質編」		副教材	プリント等	
受講対象	()1年次生向け ()2年次生向け (◎)3・4年次生向け (○)3卒業予定生向け (○)大学・短大進学対応 (△)専門学校進学対応 (×)就職対応 (×)その他				
受講条件	・「化学基礎」を履修した生徒で、大学・専門学校進学に「化学」が課されている者が望ましい				
学習目標	・化学基礎で学習した内容の発展的な部分を取り扱い、化学についての理解をより深める。 ・無機物質・有機物質についての知識をより深める。 ・化学における物質質量などの計算ができるようになる。				
学習方法	・授業では教科書を中心にして学習を進め、適時プリント教材等を併用します。 ・授業内容の定着を図るため、適時小テストや単元テスト、レポート課題などを実施します。 ・数人のグループに分かれて実験を行うこともあります。				
評価方法	・プリント、小テスト、単元テスト、レポート、授業内での取り組みなどを総合的に評価します。				
その他	・理系の大学進学希望者は「化学a・化学b」「物理a・物理b」または「化学a・化学b」「生物a・生物b」の受講が望ましい。				

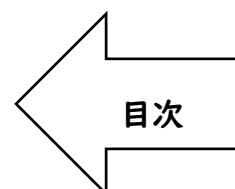
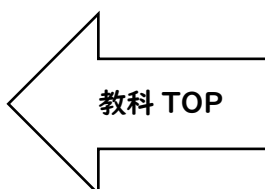
講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
生物基礎		2	前期・後期	必修	標準
教科書	第一学習社 「高等学校 新生物基礎」		副教材	プリント等	
受講対象	(△)1年次生向け (◎)2年次生向け (○)3・4年次生向け (○)3卒業予定生向け (○)大学・短大進学対応 (○)専門学校進学対応 (○)就職対応 (△)その他				
受講条件	・特になし				
学習目標	・生物や生物現象についての観察・実験などを行い、科学的な考え方や見方を身につける。 ・「代謝」「遺伝子」「恒常性」「免疫」「生態系」といった基本的な内容を最先端の生物学とともに理解する。				
学習方法	・授業では教科書を中心にして学習を進め、適時プリント教材等を併用します。 ・授業内容の定着を図るため、適時小テストや単元テスト、レポート課題などを実施します。 ・数人のグループに分かれて実験を行うこともあります。				
評価方法	・小テスト、レポート、授業内での取り組みなどを総合的に評価します。				
その他	・「科学と人間生活」と基礎科目1科目の履修を満たせば理科の必修を満たします。 ・基礎科目3科目を履修すれば、理科の必修を満たします。 ・「生物a」・「生物b」を受講するには「生物基礎」を履修しなければなりません。 ・医療、看護系の進路希望者は、「生物基礎」を受講することが望ましい。				

教科 TOP

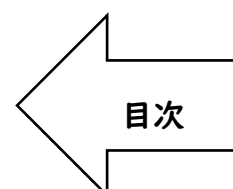
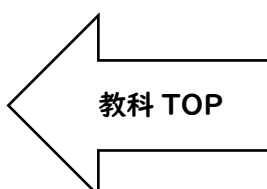
目次

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
生物a・生物b		各2	前期・後期	選択	応用
教科書	実教出版 「生物」		副教材	プリント等	
受講対象	() 1年次生向け () 2年次生向け (◎) 3・4年次生向け (◎) 3卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応 (△) 専門学校進学対応 (×) 就職対応 (×) その他				
受講条件	・「生物基礎」を履修した生徒で、大学・専門学校進学に「生物」が課されている者が望ましい。				
学習目標	・生物や生物現象についての学習を通して科学的な見方・考え方を身につける。 ・生物基礎の学習に加え、「生殖と発生」「環境応答」「進化」といった発展的な内容を最新の生物学を通して理解する。				
学習方法	・授業では教科書を中心にして学習を進め、適時プリント教材等を併用します。 ・授業内容の定着を図るため、適時小テストや単元テスト、レポート課題などを実施します。 ・数人のグループに分かれて実験を行うこともあります。				
評価方法	・小テスト、レポート、授業内での取り組みなどを総合的に評価します。				
その他	・理系の大学進学希望者は「化学 a・化学 b」「生物 a・生物 b」の受講が望ましい。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
地学基礎		2	前期・後期	必履修	標準
教科書	実教出版「地学基礎」		副教材	プリント等	
受講対象	(△)1年次生向け (◎)2年次生向け (○)3・4年次生向け (○)3卒業予定生向け (○)大学・短大進学対応 (○)専門学校進学対応 (○)就職対応 (△)その他				
受講条件	・特になし				
学習目標	・地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・「地球の構成と運動」「大気と海洋」「宇宙、太陽系と地球の誕生」「古生物の変遷と地球環境の変化」「地球の環境」について基本的な内容を学習する。				
学習方法	・授業では教科書を中心にして学習を進め、適時プリント教材等を併用します。 ・授業内容の定着を図るため、適時テストやレポート課題などを実施します。				
評価方法	・テスト、レポート、授業内での取り組みなどを総合的に評価します。				
その他	・「科学と人間生活」と基礎科目1科目の履修を満たせば理科の必履修を満たします。 ・基礎科目3科目を履修すれば理科の必履修を満たします。				



講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
自然科学探究		2	前期・後期	選択	標準
教科書	なし		副教材	なし	
受講対象	()1年次生向け ()2年次生向け (○)3・4年次生向け (○)3卒業予定生向け (△)大学・短大進学対応 (○)専門学校進学対応 (○)就職対応 (○)その他				
受講条件	・遅刻、欠席なく授業に出席し、実験や課題にまじめに取り組める者。 ・理科の必修科目を履修後に受講可能。 ・R3年度までに「自然科学入門」を修得した人は選択することができません。				
学習目標	・実験・観察を通して科学的な見方や考え方を養い興味関心を高める。 ・自然科学に関する基本的な法則について、仮説を立て実験し、検証しながら身につける。				
学習方法	・実験・観察を通してさまざまな現象、事象について学習する。				
評価方法	・授業時間内に行う実技テスト、課題や実験・観察への意欲・態度、提出物、出席点を総合的に判断し評価します。				
その他	・実験・観察を通して自然科学について理解を深める科目です。 ・実技・実習系の科目と同様に、欠時が増えると単位修得が難しいです。 ・実習教材費として500円程度必要です。				



保健体育

◎:受講に適している

○:受講できる

△:やむを得ない場合、受講できる

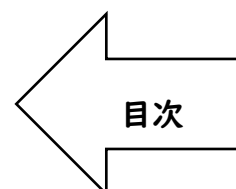
×:受講に適さない

教科名	科目名	単位数	希望進路				適正年次	備考
			大学	短大	専門学校	就職		
保健体育	体育①, ②							必修修科目
	体育③	1~2	○	○	○	○	1~3 年次	(7 単位)
	体育④							
	保健	1	○	○	○	○	1~3 年次	必修修科目 (2 科目)

<注意事項>

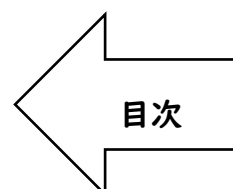
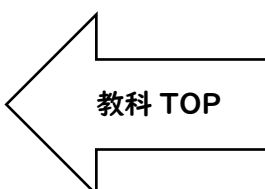
- (1)卒業には「体育」が7単位、「保健」が2単位の履修が必要です。
- (2)「体育」は他部での受講ができません。
- (3)「体育」は1年間に最大3単位(半期で2単位)まで履修できますが、同時期に異なる数字の体育を受講することはできません。
- (4)「保健」は「保健a」と「保健b」を同一年度に受講することはできません。

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
体育①～②		1・2	前期・後期	必修	標準
教科書	大修館「現代高等保健体育」		副教材	なし	
受講対象	(○)1年次生向け(○)2年次生向け()3・4年次生向け()3卒業予定生向け ()大学・短大進学対応()専門学校進学対応()就職対応()その他				
受講条件	・特になし				
学習目標	・運動の実践をととして、各種の運動の技能や知識を高める。				
学習方法	・「体育①v・体育②v」は1単位、「体育①w・体育②w」は2単位、ネット型・ゴール型・ベースボール型の種目選択の授業形態になります。				
評価方法	・出欠状況や受講態度を含む平常点と、各項目のテスト(実技・知識思考判断など)を総合的に評価します。				
その他	・特になし				

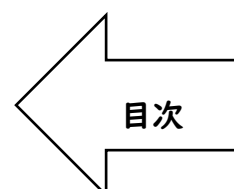
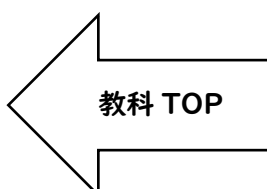


講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
体育③		Ⅰ	前期・後期	選択	標準
教科書	大修館「現代高等保健体育」		副教材	なし	
受講対象	() 1年次生向け () 2年次生向け (○) 3年次生向け () 3卒業予定生向け () 大学・短大進学対応 () 専門学校進学対応 () 就職対応 () その他				
受講条件	・体育を5単位以上(後期入学生4単位以上)履修、かつ保健 a と保健 b を履修している。				
学習目標	・運動の実践をとおして、各種の運動の技能や知識を高める。				
学習方法	・ネット型・ゴール型・ベースボール型の種目選択の授業形態になります。				
評価方法	・出欠状況や受講態度を含む平常点と、各項目のテスト(実技・知識思考判断など)を総合的に評価します。				
その他	・特になし				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
体育④		Ⅰ	前期・後期	選択	標準
教科書	大修館「最新高等保健体育 改訂版」		副教材	なし	
受講対象	()1年次生向け()2・3年次生向け(○)4年次生向け()3卒業予定生向け (△)大学・短大進学対応(△)専門学校進学対応(△)就職対応()その他				
受講条件	・体育修得単位数が5単位以上7単位未満(後期入学生4単位以上)、かつ保健 a と保健 b を履修している。但し、前期卒業予定生、進路に体育実技が必要な者は除く				
学習目標	・運動の実践をととして、各種の運動の技能や知識を高める。				
学習方法	・ネット型・ゴール型・ベースボール型の種目選択の授業形態になります。				
評価方法	・出欠状況や受講態度を含む平常点と、各項目のテスト(実技・知識思考判断など)を総合的に評価します。				
その他	・特になし				



講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
保健 a		1	前期・後期	必履修	標準
保健 b		1	前期・後期	必履修	標準
教科書	大修館「現代高等保健体育」		副教材	なし	
受講対象	(○) 1年次生向け (○) 2年次生向け () 3・4年次生向け () 3卒業予定生向け () 大学・短大進学対応 () 専門学校進学対応 () 就職対応 () その他				
受講条件	・特になし				
学習目標	・健康・安全について理解を深め、自らの健康を適切に管理し、改善する意欲を高める。				
学習方法	・授業用のプリントや板書、調べ学習など				
評価方法	・出欠状況や受講態度、提出物、小テストなどの結果を踏まえて総合的に評価します。				
その他	・旧課程の生徒が保健a、保健bを再履修する場合は、新課程の教科書を新たに購入する必要があります。				



芸術

◎:受講に適している

○:受講できる

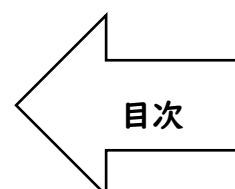
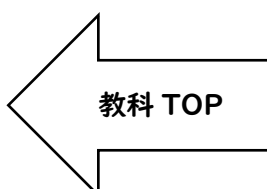
△:やむを得ない場合、受講できる

×:受講に適さない

教科名	科目名	単位数	希望進路				適正年次	備考
			大学	短大	専門学校	就職		
芸術	音楽Ⅰ	2	○	○	○	○	1年次	選択必修修科目
	音楽Ⅱ	2	○	◎	◎	△	2年次	音楽Ⅰ履修後に受講
	美術Ⅰ	2	○	○	○	○	1年次	選択必修修科目
	美術Ⅱ	2	○	○	○	○	2年次	美術Ⅰ履修後に受講
	書道Ⅰ	2	○	○	○	○	1年次	選択必修修科目
	書道Ⅱ	2	○	○	○	○	2年次	書道Ⅰ履修後に受講

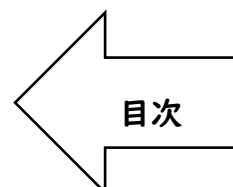
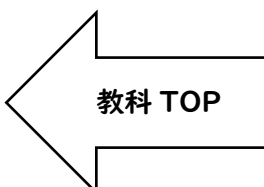
<注意事項>

- (1)「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」は必修修科目です。「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」いずれか1科目を履修すること。
- (2)「音楽Ⅱ」「美術Ⅱ」「書道Ⅱ」は、それぞれ「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」の履修後に受講できます。
- (3)芸術Ⅰの第2科目選択は、4年次以降の生徒に限定します。3年次までは音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰのいずれか1科目しか選択できません。ただし進路選択で必要な場合、担任および教科担当に相談すること。
- (4)芸術の3科目以上の選択はできません。



講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
音楽Ⅰ	2	前期・後期	必履修	標準
教科書	教育芸術社「MOUSAⅠ」	副教材		
受講対象	(◎) 1年次生向け () 2年次生向け () 3・4年次生向け () 3卒業予定生向け () 大学・短大進学対応 () 専門学校進学対応 () 就職対応 () その他			
受講条件	・音楽に興味・関心があり、授業へまじめに取り組める者 ・同年度に「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」を履修していない者			
学習目標	・音楽に関する知識を学習するとともに歌唱や器楽の活動を通して技術や表現の上達を目指す。 ・様々な音楽を聞くことによって、音楽への視野を広める。			
学習方法	・教科書の知識を課題プリントで学ぶとともに、歌唱や様々な楽器の練習に取り組む。 ・ジャンルを超えた様々な音楽を鑑賞する。			
評価方法	・歌や楽器の実技試験(60点) ・出席状況、授業態度、課題プリントや感想文の提出など平常点(40点)			
その他	・アルト・リコーダー代金 2,000 円、必要となる場合があります。 ・1～6限に実施の音楽Ⅰは、特別支援学校との「交流及び共同学習」となります。			

講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
音楽Ⅱ	2	前期・後期	選択	標準
教科書	教育芸術社「MOUSA2」	副教材		
受講対象	(×) 1年次生向け (△) 2年次生向け (○) 3・4年次生向け (◎) 3卒業予定生向け (◎) 大学・短大進学対応 (◎) 専門学校進学対応 (△) 就職対応 () その他			
受講条件	・「音楽Ⅰ」を履修した者。			
学習目標	・器楽(ピアノ)の取り組みを通して、高い技術や深い表現の上達を目指す。 ・多様なクラシック音楽を聞くことによって、クラシック音楽への見方・考え方を深める。			
学習方法	・器楽(ピアノ)の高い技術や深い表現の習得に向けた練習に取り組む。 ・より幅の広いクラシック音楽を鑑賞する。			
評価方法	・楽器の実技試験(60点) ・出席状況、授業態度、課題プリントや感想文の提出など平常点(40点)			
その他	・ピアノ実習が活動の柱となります。			



講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
美術Ⅰ		2	前期・後期	必修	標準
教科書	光村図書「美術Ⅰ」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(◎) 1年次生向け (○) 2年次生向け (○) 3・4年次生向け () 3卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応 (○) 専門学校進学対応 () 就職対応 () その他				
受講条件	・遅刻・欠席なく授業に出席し、課題や作品制作に真面目に取り組める者。 ・同年度に「音楽Ⅰ」「書道Ⅰ」を履修していない者				
学習目標	・基本的な美術の知識や表現の技能を身につける。 ・造形的な見方や考え方を働かせ、創造的に発想し構想を練る力をつける。				
学習方法	・授業始め15分程度で説明・準備→作品制作→授業最後10分程度で後片付けと掃除 ・制作予定作品…【平面】人物画、空想画、版画、デザイン画 【立体】粘土作品、木彫(浮き彫り基本) など				
評価方法	・出席点、平常点(授業態度等)、課題(作品・プリント等)点、鑑賞(発表・ワークシート等)点、その他提出物・プレゼンテーションなどから総合的に評価します。 ・全ての作品を観点別評価します。				
その他	・実習教材費¥1,300 程度が必要になります。 ・特定の講座で、特別支援学校との「共同の学び」が行われます。				

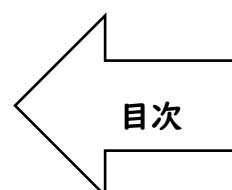
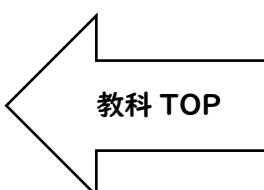
講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
美術Ⅱ		2	前期・後期	選択	標準
教科書	光村図書「美術2」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(△)1年次生向け(◎)2年次生向け(○)3・4年次生向け()3卒業予定生向け (○)大学・短大進学対応(○)専門学校進学対応()就職対応()その他				
受講条件	・「美術Ⅰ」を履修後に受講。 ・遅刻・欠席なく授業に出席し、課題や作品制作に真面目に取り組める者。				
学習目標	・「美術Ⅰ」で身につけた知識や表現の技能をベースに、さらなる技能を身につける。 ・造形的な見方や考え方を働かせ、個性豊かに発想し構想を練る力を高める。				
学習方法	・授業始め15分程度で説明・準備→作品制作→授業最後10分程度で後片付けと掃除 ・制作予定作品…【平面】版画、デザイン画 【立体】パッケージデザイン、木彫作品、木工作品 など				
評価方法	・出席点、平常点(授業態度等)、課題(作品・プリント等)点、鑑賞(発表・ワークシート等)点、その他提出物・プレゼンテーションなどから総合的に評価します。 ・全ての作品を観点別評価します。				
その他	・実習教材費¥1,000～1,300 程度が必要になります。 ・美術Ⅰに比べ専門性が高いため、学ぶ意欲がある生徒のみ受講をおすすめします。				

教科 TOP

目次

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
書道Ⅰ		2	前期・後期	必履修	標準
教科書	光村図書「書Ⅰ」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(◎)1年次生向け(○)2年次生向け(○)3・4年次生向け(△)3卒業予定生向け (○)大学・短大進学対応()専門学校進学対応(○)就職対応()その他				
受講条件	・遅刻・欠席なく授業に出席し、課題や作品制作に真面目に取り組む者。 ・同年度に「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」を履修していない者。				
学習目標	・書の臨書を通して、書道の基礎的な能力を身につけ、表現力を磨く。				
学習方法	・毛筆と硬筆を実施。講義と実技を行います。 ・教科書を中心に、プリント等の副教材も使用します。				
評価方法	・実技科目により、授業は積極的に参加し作品づくりをしてください。 ・作品点 70 点…観点別(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう姿勢」)に評価。 平常点 30 点…出席状況、授業態度、課題プリントへの取組み、感想文記入。				
その他	・実習教材費¥600～¥1,000 程度が必要になります。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
書道Ⅱ		2	前期・後期	選択	標準
教科書	光村図書「書Ⅱ」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(△)1年次生向け(◎)2年次生向け(○)3・4年次生向け(△)3卒業予定生向け (○)大学・短大進学対応()専門学校進学対応(○)就職対応()その他				
受講条件	・「書道Ⅰ」を履修後に受講。				
学習目標	・書道の諸活動を通して、伝統と文化について理解を深める。				
学習方法	・毛筆、硬筆、篆刻を実施。 ・教科書を中心に、プリント等の副教材も使用します。				
評価方法	・実技科目により、授業は積極的に参加し作品づくりをしてください。 ・作品点 70 点…観点別(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう姿勢」)に評価。 平常点 30 点…出席状況、授業態度、課題プリントへの取組み、感想文記入。				
その他	・実習教材費¥600～¥1,000 程度が必要になります。				



外国語

◎:受講に適している

○:受講できる

△:やむを得ない場合、受講できる

×:受講に適さない

教科名	科目名	単位数	希望進路				適正年次	備考
			大学	短大	専門学校	就職		
外国語	英語コミュニケーションⅠab	4	◎	○	○	△	1年次以降	必修修科目
	英語コミュニケーションⅠα	2	△	○	○	◎	1年次以降	必修修科目
	英語コミュニケーションⅡ	4	◎	○	△	△	2年次以降	英CⅠab,英CⅠα履修後に受講
	論理・表現Ⅰ	2	○	○	○	○	2年次以降	英CⅠab,英CⅠα履修後に受講することが望ましい
	英語入門	2	×	△	○	○	1年次	英CⅠab,英CⅠα履修前に受講
	発展英語	4	◎	○	×	×	卒業年次	英CⅡを履修後に受講することが望ましい

<注意事項>

- (1) 外国語は、「英語コミュニケーションⅠ」が必修修科目です。卒業には、「英語コミュニケーションⅠα」または「英語コミュニケーションⅠab」のどちらかの履修が必要となります。
- (2) 「英語コミュニケーションⅠα」と「英語コミュニケーションⅠab」は卒業までにどちらか一方しか受講できません。
- (3) 「英語コミュニケーションⅡ」は、「英語コミュニケーションⅠα」または「英語コミュニケーションⅠab」のどちらかの履修後でなければ受講できません。
- (4) 大学等の受験科目に英語がある人は、「英語コミュニケーションⅠ」と「英語コミュニケーションⅡ」の2科目を受講した後に「発展英語」を受講することが望まれます。
- (5) 「英語入門」はアルファベット、単語、発音の学習から始めて、英語の基礎の定着を図ります。「英語コミュニケーションⅠ」を履修する前に受講することが望まれます。すでに「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を履修済みの場合は、受講できません。
- (6) 「発展英語」は教科書購入時に副教材費として500円程度が必要です。

講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
英語コミュニケーションⅠa	2	前期	必履修	標準
英語コミュニケーションⅠb	2	後期	必履修	標準
教科書	“All Aboard! English Communication I”(東京書籍)		副教材	課題プリント等(各授業中に配布)
受講対象	(◎)1年次生向け(○)2年次生向け(○)3・4年次生向け()卒業予定生向け (◎)大学・短大進学対応(○)専門学校進学対応(△)就職対応()その他			
受講条件	・特になし			
学習目標	・高校英語の基礎から応用までを全般的に学習します。 ・動詞(be動詞、一般動詞)、進行形、助動詞、過去時制、文型、不定詞、動名詞、現在完了形、受動態、分詞、関係詞、仮定法			
学習方法	・授業では、教科書及び課題プリント等の副教材を適時使用します。 ・英文法を軸に英文を日本語で理解した後、英文の音読や筆写等の活動を通して、英語の定着を図ります。			
評価方法	・出欠・課題・小テスト・授業内単元テスト・パフォーマンステスト等を総合的に評価する。			
その他	・「英語コミュニケーションⅠa,b」または「英語コミュニケーションⅠα」のどちらか1つを履修することが必要です。両方を履修することはできません。			

講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
英語コミュニケーションⅠα	2	後期	必履修	基本
教科書	“All Aboard! English Communication I”(東京書籍)		副教材	課題プリント等(各授業中に配布)
受講対象	(◎)1年次生向け(△)2年次生向け(△)3・4年次生向け()卒業予定生向け (○)大学・短大進学対応(○)専門学校進学対応(◎)就職対応()その他			
受講条件	・特になし			
学習目標	・小中学校での学習内容を復習しながら高校英語の基礎を全般的に学習します。 ・動詞(be動詞、一般動詞)、進行形、助動詞、過去時制、文型、不定詞、動名詞、現在完了形、受動態、関係代名詞			
学習方法	・授業では、教科書及び課題プリント等の副教材を随時使用します。 ・英文法を軸に英文を日本語で理解した後、英文の音読や筆写等の活動を通して、英語の基礎知識の定着を図ります。			
評価方法	・出欠・課題・小テスト・授業内単元テスト・パフォーマンステスト等を総合的に評価する。			
その他	・「英語コミュニケーションⅠa,b」または「英語コミュニケーションⅠα」のどちらか1つを履修することが必要です。両方を履修することはできません。			

講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
英語コミュニケーションⅡa	2	前期	選択	標準
英語コミュニケーションⅡb	2	後期	選択	標準
教科書	“All Aboard! English CommunicationⅡ”(東京書籍)		副教材	課題プリント等(各授業中に配布)
受講対象	()1年次生向け(○)2年次生向け(○)3・4年次生向け()卒業予定生向け (◎)大学・短大進学対応(△)専門学校進学対応()就職対応()その他			
受講条件	・「英語コミュニケーションⅠa,b」または「英語コミュニケーションⅠα」のどちらか1つを履修していることが必要です。			
学習目標	・高校英語の基礎を確認しながら、高校英語の完成を目指します。 ・疑問詞やifで始まる節、比較、名詞を修飾する分詞、知覚動詞、使役動詞、現在完了進行形、過去完了形、関係代名詞の非制限用法、強調構文			
学習方法	・授業では、教科書及び課題プリント等の副教材を適時使用します。 ・英文法を軸に英文を日本語で理解した後、英文の音読や筆写等の活動を通して、英語の定着を図ります。			
評価方法	・平常点(出席、授業中の取組、プリント提出等)や、パフォーマンステスト、授業内テストを総合的に評価する。			
その他	・大学、短大、専門学校(看護)等の進学希望者は履修してください。			

講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
論理・表現Ⅰ	2	前期・後期・通年	選択	標準
教科書	“Amity English Logic and ExpressionⅠ”(開隆堂)		副教材	課題プリント等(各授業中に配布)
受講対象	(△)1年次生向け(○)2年次生向け(○)3・4年次生向け()卒業予定生向け (○)大学・短大進学対応(○)専門学校進学対応(△)就職対応()その他			
受講条件	・「英語コミュニケーションⅠa,b」または「英語コミュニケーションⅠα」のどちらか1つを履修した後で受講することが望ましい。			
学習目標	・英語の基礎を確認しながら、英語で積極的にコミュニケーションを図ることができるようになる。 ・文の種類、文型と動詞、時制、完了形、助動詞、受動態、不定詞、動名詞、分詞、関係詞、比較、仮定法を理解する。			
学習方法	・授業では、教科書及び課題プリント等の副教材を適時使用します。 ・英語を話したり書いたりする活動を通して、定着を図ります。			
評価方法	・平常点(出席、授業中の取組、プリント提出等)や、小テスト、単元テストを総合的に評価する。			
その他	・大学、短大、専門学校(看護)等の進学希望者は履修してください。			

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
英語入門		2	前期	選択	基本
教科書	なし		副教材	課題プリント等(各授業中に配布)	
受講対象	(◎) 1年次生向け() 2年次生向け() 3・4年次生向け() 卒業予定生向け (×) 大学・短大進学対応(○) 専門学校進学対応(○) 就職対応() その他				
受講条件	・「英語コミュニケーションⅠ(ab またはα)」「英語コミュニケーションⅡ(ab)」を履修済みの場合は受講できません。 ・英語の基礎の学習をやり直したいと強く希望する生徒対象				
学習目標	・中学校英語の基本的な単語や文法から学び直し、英語の基礎の定着を図る。 ・「英語コミュニケーションⅠab」、「英語コミュニケーションⅠα」の受講準備とする。				
学習方法	・授業では、課題プリント等の副教材を適時使用します。 ・アルファベットの読み方と書き方から始め、基本的な単語の練習に取り組む。また、基本的な文法事項(be 動詞・一般動詞、時制)について、問題演習と解説を通して理解を図る。				
評価方法	・授業態度、出欠、課題提出、小テスト(授業内)、パフォーマンステスト等を総合的に評価する。 ・出席していても授業に参加していなければ単位の修得はできません。				
その他	・特になし				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
発展英語 a		2	前期	選択	応用
発展英語 b		2	後期	選択	応用
教科書	なし		副教材	“Watching NEWS” (浜島書店)他	
受講対象	()1年次生向け()2年次生向け()3・4年次生向け(△)卒業予定生向け (○)大学・短大進学対応()専門学校進学対応()就職対応()その他				
受講条件	・英語で読んだり、聞いたりする活動を中心に、日本や海外のことを知りたいと希望する生徒対象 ・文化・社会・世界・科学・環境など様々な話題やテーマについて 200～300 語程度の英文を読むので、意欲的に英語を学ぼうとする生徒対象				
学習目標	・高校英語の定着を図る。 ・英語で読む・聞く・書く・話す力を身につける。				
学習方法	・最近のニュースを英語で読んだり、聞いたりして、その内容を理解する。 ・英文の構成を学び、自分で書いたり話したりする練習を実践する。				
評価方法	・まとめのテスト、パフォーマンステスト、平常点(出席、授業中の取組、小テスト等)を総合的に評価する。				
その他	・副教材費として 500 円程度が必要です。 ・大学等の進学希望者で、受験科目に英語がある人は履修してください。				

家庭

◎:受講に適している

○:受講できる

△:やむを得ない場合、受講できる

×:受講に適さない

教科名	科目名	単位数	希望進路				適正年次	備考
			大学	短大	専門学校	就職		
家庭	家庭基礎	2	○	○	○	○	2年次	必履修科目
	服飾手芸	2	○	○	◎	○	3・4年次	家庭基礎履修後に受講
	保育基礎	2	○	○	◎	○	3・4年次	家庭基礎履修後に受講
	フードデザイン	2	○	○	◎	○	3・4年次	家庭基礎履修後に受講

<注意事項>

- (1)「家庭基礎」は必履修科目です。
- (2)「服飾手芸」は「家庭基礎(衣生活分野)」で学んだことを、さらに発展させた授業です。
- (3)「保育基礎」は「家庭基礎(保育分野)」で学んだことを、さらに発展させた授業です。
- (4)「フードデザイン」は「家庭基礎(食生活分野)」で学んだことを、さらに発展させた授業です。

教科 TOP

目次

講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
家庭基礎	2	前期・後期	必履修	標準
教科書	「家庭基礎 自立・共生・創造」 東京書籍		副教材	授業時配布のプリント等
受講対象	() 1年次生向け (◎) 2年次生向け () 3・4年次生向け () 卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応 (○) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 () その他			
受講条件	・特になし			
学習目標	・人の一生と家族・家庭、衣・食・住、家庭経済などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、家庭や地域の生活課題を自主的に解決する態度を育成する。 ・家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。			
学習方法	・授業では教科書を中心に学習し、プリント等の副教材も使用します。 ・衣・食分野に関しては実習中心に行います。			
評価方法	・単元テスト、授業プリント、実技テスト、作品、授業への取り組み（提出物への取り組み、出席点も含む）を3観点（知識・技能、思考・判断・表現、学びに向かう主体性）で評価します。			
その他	・実習教材費として 1500 円程度が必要になります。			

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
服飾手芸		2	前期	選択	標準
教科書	なし		副教材	主婦の友社『一生使える おさいほうの基本』 授業時配布のプリント等	
受講対象	() 1年次生向け () 2年次生向け (◎) 3・4年次生向け () 卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応 (◎) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 () その他				
受講条件	・「家庭基礎」履修後に受講				
学習目標	・「家庭基礎(衣生活分野)」で学んだ学習内容を基礎とし、刺しゅうや手芸などの実習を通して、知識と技術を習得し、創造的で感性豊かな作品へ活用することができる資質・能力を育成する。				
学習方法	・実習中心の授業です。基礎的な知識・技術を学び、さまざまな手芸品を制作します。 ・基礎事項を学習後、実技テストを行います。				
評価方法	・確認テスト、実習レポート、作品、授業への取り組み(提出物への取り組み、出席点も含む)を3観点(知識・技能、思考・判断・表現、学びに向かう主体性)で評価します。				
その他	・副教材の費用 1,320 円とは別に実習教材費として 3500 円程度(学校購入、自分で購入を合わせて)が必要になります。				

講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
保育基礎	2	通年	選択	標準
教科書	教育図書「保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ」		副教材	授業時配布のプリント等
受講対象	() 1年次生向け () 2年次生向け (◎) 3・4年次生向け () 卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応 (◎) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 () その他			
受講条件	・「家庭基礎」履修後に受講			
学習目標	・「家庭基礎(保育分野)」で学んだ学習内容を基礎とし、子どもの発達や生活の特徴等を理解する。 ・保育を担う職業人を目指し、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
学習方法	・授業では教科書を中心に学習し、プリント等の副教材も使用します。 ・おもちゃ作り・妊婦疑似体験・読み聞かせ・離乳食・保育園訪問等の実習を行います。			
評価方法	・単元テスト、授業プリント、作品、授業への取り組み(提出物への取り組み、出席点も含む)を3観点(知識・技能、思考・判断・表現、学びに向かう主体性)で評価します。			
その他	・実習教材費として500円程度が必要になります。 ・直接子どもたちと触れ合う機会があります。事故防止のため、事前指導を受け注意事項は必ず守ってください。			

講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
フードデザイン	2	後期	選択	標準
教科書	教育図書「フードデザイン Food Changes LIFE」		副教材	授業時配布のプリント等
受講対象	() 1年次生向け () 2年次生向け (◎) 3・4年次生向け () 卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応 (◎) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 () その他			
受講条件	・「家庭基礎」履修後に受講			
学習目標	・「家庭基礎(食生活分野)」で学んだ学習内容を基礎とし、食生活に関する基本的な知識と技術の定着を図り、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力・態度を育てる。			
学習方法	・実習中心の授業です。基礎的な知識・技術を学び、一人で調理できる力をつけます。 ・実習では、グループ学習が主体となっています。			
評価方法	・授業プリント、実技テスト、確認テスト、調理作品、授業への取り組み(提出物への取り組み、出席点も含む)を3観点(知識・技能、思考・判断・表現、学びに向かう主体性)で評価します。			
その他	・実習教材費として 5000 円程度が必要になります(材料費の変動で金額が変更になる可能性があります)。遅刻や欠席をしても、欠時数が超過しても実習教材費の返金はありません。			

情報

◎：受講に適している

○：受講できる

△：やむを得ない場合、受講できる

×：受講に適さない

教科名	科目名	単位数	希望進路				適正年次	備考
			大学	短大	専門学校	就職		
情報	情報Ⅰ	2	○	○	○	○	全年次	

<注意事項>

- 「情報Ⅰ」は必修科目です。
- 商業科の科目を履修するためには、「情報Ⅰ」を履修する必要があります。

講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
情報Ⅰ	2	前期・後期	必修	標準
教科書	「情報Ⅰ 図解と実習」 (日本文教出版)		副教材	「情報Ⅰ 図解と実習」 サブノート (日本文教出版)
受講対象	(◎)1年次生向け (○)2年次生向け (○)3・4年次生向け (○)卒業予定生向け (○)大学・短大進学対応 (○)専門学校進学対応 (○)就職対応 ()その他			
受講条件	・特になし			
学習目標	・情報に関する科学的な見方・考え方を理解する。 ・問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する。 ・情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。			
学習方法	・(前半 時間)教科書と副教材を併用しながら授業を進めます。 ・(後半 時間)主にコンピュータを使用して実習を行います。			
評価方法	・平常点(提出物(ノート)・授業態度・出席)、単元テスト、実習課題の完成度、授業振り返りシートを総合して評価します。			
その他	・3～6限の授業は、特別支援学校との「交流及び共同学習」になる場合があります。			

教科 TOP

目次

商業

◎:受講に適している

○:受講できる

△:やむを得ない場合、受講できる

×:受講に適さない

教科名	科目名	単位数	希望進路				適正年次	備考
			大学	短大	専門学校	就職		
商業	情報処理	2	○	○	○	○	2～4	
	簿記ab	4	○	○	○	○	2～4	
	プログラミング	2	○	○	○	○	2～4	
	課題研究	2	○	○	○	○	2～4	

<注意事項>

- (1) 商業に関する科目は、「情報Ⅰ」を修得後に受講してください。
- (2) 「簿記」は経営・会計分野への進学・就職を希望する人を対象とした講座です。

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
情報処理		2	前期・後期	選択	標準
教科書	実教出版「情報処理 新訂版」		副教材	全商ビジネス文書模擬問題集 全商情報処理模擬問題集	
受講対象	(×) 1 年次生向け (○) 2 年次生向け (○) 3・4 年次生向け (○) 卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応 (○) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 () その他				
受講条件	・「情報Ⅰ」を修得後に受講してください。				
学習目標	・ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得し、情報の意義や役割について理解します。 ・全商協会主催ビジネス文書実務検定3級、情報処理検定3級以上の取得を目指します。 ・大学入学共通テストの「情報」にも対応します。				
学習方法	・教科書、授業中の配付プリントを使用した学習、パソコンを使用した実習を中心に行います。 ・授業では出席時の態度、実習を重視しています。出席していても授業に参加していなければ単位の修得はできません。				
評価方法	・出席状況、授業の取り組み、課題の提出、実技考査の得点を総合的にみて、評価します。				
その他	・1回の検定料として1,500円程度必要です。 ・別途問題集を購入します。(1,500円程度)				

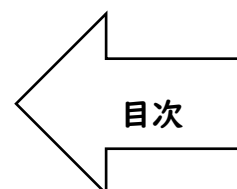
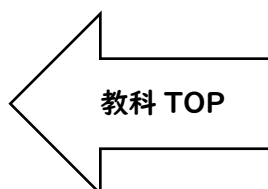
教科 TOP

目次

講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
簿記a	2	前期	選択	標準
簿記b	2	後期	選択	標準
教科書	とうほう出版「簿記」		副教材	とうほう出版 簿記問題集「全商3級」
受講対象	(×) 1年次生向け (○) 2年次生向け (○) 3・4年次生向け (○) 3卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応 (○) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 () その他			
受講条件	・欠席、遅刻せず、真面目に授業に参加できるもの ・「情報Ⅰ」を修得後に受講してください。 ・簿記a、簿記b、両方とも受講してください。(4単位)			
学習目標	・簿記に関する知識と技術の習得を目指します。 ・簿記検定の取得を目指します。(日本商工会議所主催 簿記実務検定3級程度) ・経営分析と適正な会計処理ができる能力と態度を身に付けます。			
学習方法	・教科書と問題集を使いながら学習を進めます。 ・簿記で使用する電卓について操作方法などを学習します。			
評価方法	・平常点(提出物・授業態度・出席・単元テスト・小テスト)を総合して評価します。			
その他	・毎授業の積み重ねが重要な科目です。欠席すると、理解することが困難になります。 ・12桁の電卓(CASIO 推奨)を各自購入(2,000円程度)し、準備してください。 ・問題集を購入します。(1冊800円程度)			

講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
プログラミング	2	前期・後期	選択	標準
教科書	実教出版「プログラミング」		副教材	実教 全商1級 プログラミング 実教 全商2級 プログラミング
受講対象	(×) 1年次生向け (○) 2年次生向け (○) 3・4年次生向け (○) 3卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応 (○) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 () その他			
受講条件	・「情報Ⅰ」を修得後に受講してください。			
学習目標	・プログラミングに関する問題演習や、課題の設定と、その課題解決を図る学習をします。 ・大学入学共通テストの「情報」にも対応します。			
学習方法	・問題集やプリント、パソコンを使用して、自ら設定した目標にむかって、学習します。			
評価方法	・出席状況、授業の取り組み、課題の提出等を総合的に判断し、評価します。			
その他	1回の検定料として1,500円程度必要です。 別途問題集を購入します。(1,500円程度)			

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
課題研究		2	前期・後期	選択	標準
教科書	なし		副教材	授業中の配布プリント	
受講対象	(×) 1年次生向け (○) 2年次生向け (○) 3・4年次生向け (○) 3卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応 (○) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 () その他				
受講条件	・「情報Ⅰ」を修得後に受講してください。				
学習目標	・ビジネスに関する課題を設定し、自らその課題解決を図る学習をします。				
学習方法	・パソコンを用いてグループで調査研究、プレゼンテーション・発表等を行います。 ・フィールドワークを実施し、ビジネスを体験します。				
評価方法	・出席状況、出席時の取り組み、課題の提出等を総合的に判断し、評価します。				
その他	・設定した課題によっては、検定取得なども可能です。 (1回の検定料として1,000円程度必要です。個々の検定によって異なります。)				



福祉

◎：受講に適している

○：受講できる

△：やむを得ない場合、受講できる

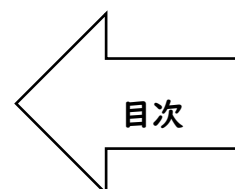
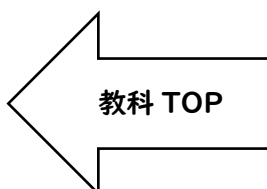
×：受講に適さない

教科名	科目名	単位数	希望進路				適正年次	備考
			大学	短大	専門学校	就職		
福祉	介護福祉基礎	4	○	○	○	○	2年次以降	介護系進学者が望ましい

<注意事項>

- (1) 介護・看護系等に進学もしくは就職を考えている生徒を対象とした講座です(2年次以降)。
 (2) 実技を伴う授業のため、授業態度や意欲とレポートの内容も評価の対象となります。

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
介護福祉基礎 a		2	前期	選択	標準
介護福祉基礎 b		2	後期	選択	標準
教科書	実教出版「介護福祉基礎」		副教材	プリント等(授業中に配布)	
受講対象	(×) 1 年次生向け (○) 2 年次生向け (○) 3・4 年次生向け (○) 3 卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応 (○) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 () その他				
受講条件	・2 年次生以上が対象。 ・介護・看護系に関心があり、目的意識を持って受講できる生徒。				
学習目標	・介護・看護を必要とする人の尊厳の保持や支援の方法などの基礎知識が理解できる。 ・介護・看護を実施するにあたり必要な態度と感性を身につける。				
学習方法	・教科書とプリントを中心にした講義と、実技を行います。				
評価方法	・出席、授業態度、実技態度や実技テスト、レポートの内容を総合的に評価します。				
その他	・実技は事故防止のため、事前及び実技中の注意事項は必ず守って下さい。				



キャリア

◎:受講に適している

○:受講できる

△:やむを得ない場合、受講できる

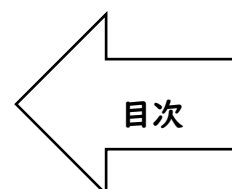
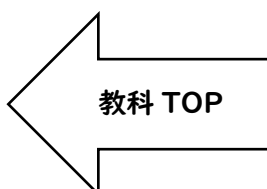
×:受講に適さない

教科名	科目名	単位数	希望進路				適正年次	備考
			大学	短大	専門学校	就職		
キャリア	キャリア開拓	2	×	×	×	◎	3～4年次	学校幹旋による就職を希望する卒業予定生

<注意事項>

(1)卒業予定生で、学校幹旋での就職を希望している生徒は「キャリア開拓」を、必ず受講すること。

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
キャリア開拓		2	前期	選択	標準
教科書	なし		副教材	「就職試験対策ドリル」 (Benesse)	
受講対象	(×) 1年次生向け (×) 2年次生向け (△) 3・4年次生向け (○) 卒業予定生向け (×) 大学・短大進学対応 (×) 専門学校進学対応 (○) 就職対応 () その他				
受講条件	・卒業予定生で、学校斡旋による民間企業および公務員(警察、自衛隊等)への新規学卒就職を希望していること。 ・卒業予定生以外は受講しないこと。				
学習目標	・就職をする上で、社会人として必要な基礎的知識と資質を養う。 ・就職活動の具体的な内容を学び、実践的な学習を通じ、進路実現(希望企業への内定)を目指す。				
学習方法	・テキスト、プリントを中心に一般試験対策、履歴書の書き方等を学ぶ。また実践的な面接練習を行う。				
評価方法	・提出物、小テスト、面接テストで評価を行う。				
その他	・学校斡旋での就職を希望する生徒は必ず受講すること。 ・テキスト代として 700 円程度必要です。				



共生社会と人間

◎:受講に適している

○:受講できる

△:やむを得ない場合、受講できる

×:受講に適さない

教科名	科目名	単位数	希望進路				適正年次	備考
			大学	短大	専門学校	就職		
共生社会と人間	ノーマライゼーション	2	○	○	○	○	1年次	入学年度に履修すること
	対人援助	2	○	○	○	○	2～4年次	ノーマライゼーション修得後に選択
	地域社会への支援	2	○	○	○	○	2～4年次	ノーマライゼーション修得後に選択
	キャリアプランニング	2	×	×	×	◎	2～4年次	ノーマライゼーション修得後に選択

<注意事項>

(1)「ノーマライゼーション」は、原則として全員履修です。

(2)対人援助」「地域社会への支援」「キャリアプランニング」は、「ノーマライゼーション」を履修し、十分な成果を上げている（修得する）ことが必要です。

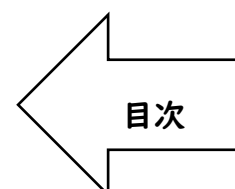
(3)「キャリアプランニング」は、交流及び共同学習タイプCの授業であり、特別支援学校の授業を特別支援学校の生徒達と一緒に受講する時間もあります。担任の先生等と相談の上、受講してください。

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
ノーマライゼーション		2	通年	選択	標準
教科書	なし		副教材	レジュメ(授業ごとに配付)	
受講対象	(◎) 1年次生向け(○) 2年次生向け(○) 3・4年次生向け(○) 卒業予定生向け (○) 大学・短大進学対応(○) 専門学校進学対応(○) 就職対応() その他				
受講条件	・本校入学1年目の生徒は、全員受講する。				
学習目標	・「社会におけるノーマライゼーションの理念を進展するための礎となる学校をめざす」という本校の設置趣旨の柱を具体的な教科として学び、共生社会の形成に貢献できる人づくりを目指す。 ・受験に必要な科目ではないが、福祉系のへの進学、就職に役立てることができる。 ・日常生活の中で、障害者と出会った時などの対応や心構えなどを学ぶことができる。				
学習方法	・阪神昆陽特別支援学校や社会福祉協議会、各福祉団体の関係者を講師に招き講義をしてもらう。 ・車いす、手話、点字などの実習をおこなう。				
評価方法	・講義を受け、実習に取り組み、セルフノート(学習記録)を提出する。 ・ノーマライゼーション発表大会の準備・発表等を通して、その取り組みを評価する。 ・適宜小テストを実施する。				
その他	・特になし				

教科 TOP

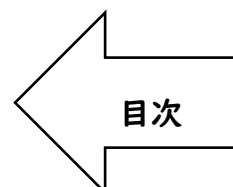
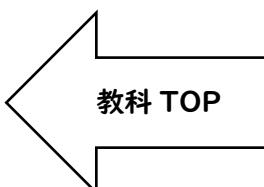
目次

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
対人援助		2	通年	選択	標準
教科書	なし		副教材	プリント(授業ごとに配付)	
受講対象	(×) 1 年次生向け (○) 2 年次生向け (○) 3・4 年次生向け (○) 卒業予定生向け (△) 大学・短大進学対応 (△) 専門学校進学対応 (△) 就職対応 () その他				
受講条件	・学校設定科目「ノーマライゼーション」を修得していること。 ・福祉分野に興味関心を持ち、講義・福祉施設での実習に積極的に取り組むことができること。 ・欠席しないこと。				
学習目標	・知的障害者移動支援従業者(ガイドヘルパー)の資格を取得する。 ・障害者福祉施設での実習を通じ、知的障害についての理解を深め、援助方法を身に付ける。				
学習方法	・移動支援従業者養成研修課程を受講し知的障害者移動支援従業者の資格取得を目指す。 ・障害者福祉施設での実習及び施設利用者を対象としたイベントを企画・実施することで知的障害に関する理解を深める。				
評価方法	・講義・実習への参加意欲・態度を重視する。 ・セルフノート(講義ノート・実習ノート)を作成し、毎回提出する。				
その他	・実習や施設訪問の際には体操服を着用するなど、服装や装飾品などは制限する。また、髪の色染めを求める場合もある。 ・実習への参加は意欲に加え、セルフノートの内容や受講態度等を総合的に判断する。 ・ボランティア保険への加入や実習施設での昼食代など別途費用が必要。(参考: R5 年度・880 円) ・授業を欠席した場合は、必ず補講を受講する。 ・実習の都合上、受講人数の上限を 15 名とする。				



講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
地域社会への支援		2	通年	選択	標準
教科書	なし		副教材	プリント(授業ごとに配付)	
受講対象	(×) 1年次生向け (○) 2年次生向け (○) 3・4年次生向け (○) 卒業予定生向け (△) 大学・短大進学対応 (△) 専門学校進学対応 (△) 就職対応 () その他				
受講条件	・学校設定科目「ノーマライゼーション」を履修・修得していること。				
学習目標	・地域の子ども、高齢者、障がい者に対する援助方法等に係る基礎知識を基に、体験活動等を行う。 ・共生社会のあり方や現在の社会状況についての認識や理解を深め、社会に貢献できる資質を養う。				
学習方法	・近隣学校をはじめ、校外施設において実習を行い、様々な世代に対する援助方法を実践的に学んでいく。 ・地域住民、民生委員、伊丹市社会福祉協議会、近隣学校の協力を得ながら実習やグループワークを行い、地域社会における支援や防災、福祉のあり方について考えていく。				
評価方法	・授業への参加意欲・態度を重視する。 ・ワークシートや製作物を提出する。				
その他	・実習や施設訪問の際には体操服を着用するなど、服装や装飾品などは制限する。 ・実習の都合上、受講人数の上限を 10 名とする。 ・土日や夏休みに活動する場合がある。 ・ボランティア保険への加入をする場合がある。				

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
キャリアプランニング		2	前期	選択	標準
教科書	なし		副教材	プリント等(授業ごとに配付)	
受講対象	(×) 1年次生向け(×) 2年次生向け(○) 3・4年次生向け(◎) 卒業予定生向け (×) 大学・短大進学対応(×) 専門学校進学対応(◎) 就職対応(×) その他				
受講条件	・学校設定科目「ノーマライゼーション」を履修・修得していること。 ・就職希望者であること。 ・1講座の人数の上限は、30名です。				
学習目標	・自己理解を深め、自らの進路について考えるとともに、社会常識やビジネスマナー、ソーシャルスキル等を身に付ける。 ・特別支援学校の職業教育・ソーシャルスキルトレーニングの授業に参加し、共同学習を行う。				
学習方法	・プリントを活用した講義、実習、グループワーク等				
評価方法	・授業や課題プリントへの取り組み等を総合的に評価します。				
その他	・両校の時間割の都合上、高校だけでの座学やグループワークが中心です。特別支援学校での職業授業に参加する場合があります。				



総合的な探究の時間

◎：受講に適している

○：受講できる

△：やむを得ない場合、受講できる

×：受講に適さない

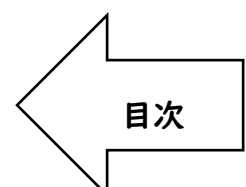
教科名	科目名	単位数	希望進路				適正年次	備考
			大学	短大	専門学校	就職		
総合的な 探究の時間	総合的な 探究の時間	1	○	○	○	○	1年次以降	必修科目

<注意事項>

(1) 必修科目です。卒業には3～6単位の履修が必要です。

(2) 同一年度には1単位のみ履修できます。従って、1単位不認定になると、卒業が1年遅れます。

講座(科目)名	単位数	開設形態	履修形態	難易度
総合的な探究の時間	1	通年	必修	標準
教科書	なし		副教材	プリント等
受講対象	(○)1年次生向け(○)2年次生向け(○)3・4年次生向け(○)卒業予定生向け (○)大学・短大進学対応(○)専門学校進学対応(○)就職対応()その他			
受講条件	・なし			
学習目標	・自分を知り、自分を分析することでお互いの信頼関係を築き、様々な課題を解決する資質・能力を育成する。 ・「生活体験発表」「ふるさと貢献事業」等の体験学習を通して、進路実現の方向性を見いだす。			
学習方法	・平常授業、大講義室での外部講師による講話、地域貢献作業等様々な形態で授業を実践する。			
評価方法	・授業態度及び取り組み方、生活体験発表等提出物の内容、出席状況等を総合的に判断して評価する。			
その他	・なし			



自立活動

◎:受講に適している

○:受講できる

△:やむを得ない場合、受講できる

×:受講に適さない

教科名	科目名	単位数	希望進路				適正 年次	備考
			大学	短大	専門学校	就職		
自立活動	基礎社会技術	1	※	※	※	※	※	※進路や年次に関係なく、日々の生活・学習に困難を感じており、教育的ニーズがある生徒。

<注意事項>

- (1) 本人の「教育的ニーズ」に基づく申し出を基本にします。進路や年次は問いません。
- (2) 一人ひとりのニーズに合わせて指導内容、指導方法を決めていきます。
- (3) 受講に当たっては、半年間の観察・チェックリストなどによる実態把握と担当者による面接があります。

講座(科目)名		単位数	開設形態	履修形態	難易度
基礎社会技術		1	前期・後期	※	※
教科書	なし		副教材	なし	
受講対象	(※)1年次生向け(※)2年次生向け(※)3・4年次生向け(※)卒業予定生向け (※)大学・短大進学対応(※)専門学校進学対応(※)就職対応(※)その他				
受講条件	・受講に当たっては、半年間の観察・チェックリストなどによる実態把握と担当者による面接があります。				
学習目標	・一人ひとりのニーズに合わせて本人と話し合い、保護者の了解を得て目標を定めます。 ・継続して履修する場合は、半期ごとを基本に目標を見直します。 ・特別支援学校の「自立活動」の内容を踏まえて、学習内容を設定します。				
学習方法	・「からだほぐし」「こころほぐし」「まなびほぐし」の3区分を設け、それに沿った活動をします。 ・適宜個別の面談をしながら、学習内容・学習方法等を検討します。				
評価方法	・個別に定めた目標に向けて活動し、経過を観察します。 ・面談を通して、取り組みに向けての意欲などを話し合います。 ・個別に定めた目標を達成(或いは達成に向けて十分努力)が見られた場合、単位を認定する。				
その他	・ニーズがある限り、継続して受講することも可能です。				

教科 TOP

目次



HANSHIN-KOYA